



Bee
Gees

Love Sounds 3



風のイトコたち

彼らは知っている

少年だけの涙……

都会の野性……

土曜日の孤独……

5月の太陽……

愛の宿題……

数えきれない「なぜ？」……

彼らは忘れない

白い外国船……

宝島探し……

南十字星……

今朝すれちがった女の子……

砂漠に行くジープ……

彼らは願う

裸足の世界……

素朴な夜明け……

100年以上の未来……

私たちからの返事……

八坂裕子



1972

●公演日程

3月23日(木) 6:30 P.M.

東京 渋谷公会堂

主催 東京12チャンネル

3月24日(金) 6:30 P.M.

東京 日本武道館大ホール

主催 東京12チャンネル

3月25日(土) 6:00 P.M.

大阪 大阪フェスティバルホール

主催 毎日放送

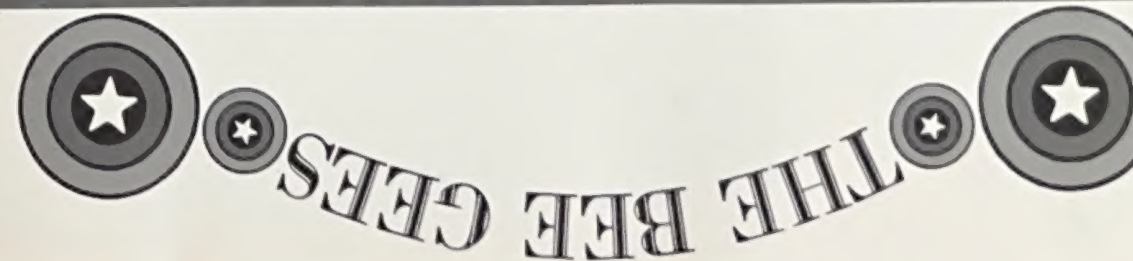
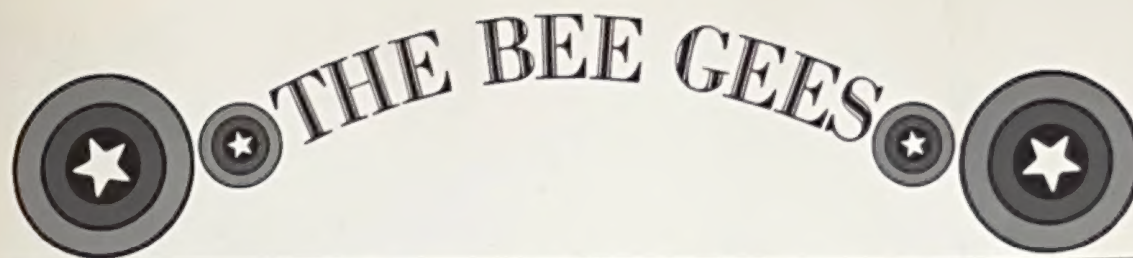
3月26日(日) 6:00 P.M.

大阪 大阪フェスティバルホール

主催 毎日放送

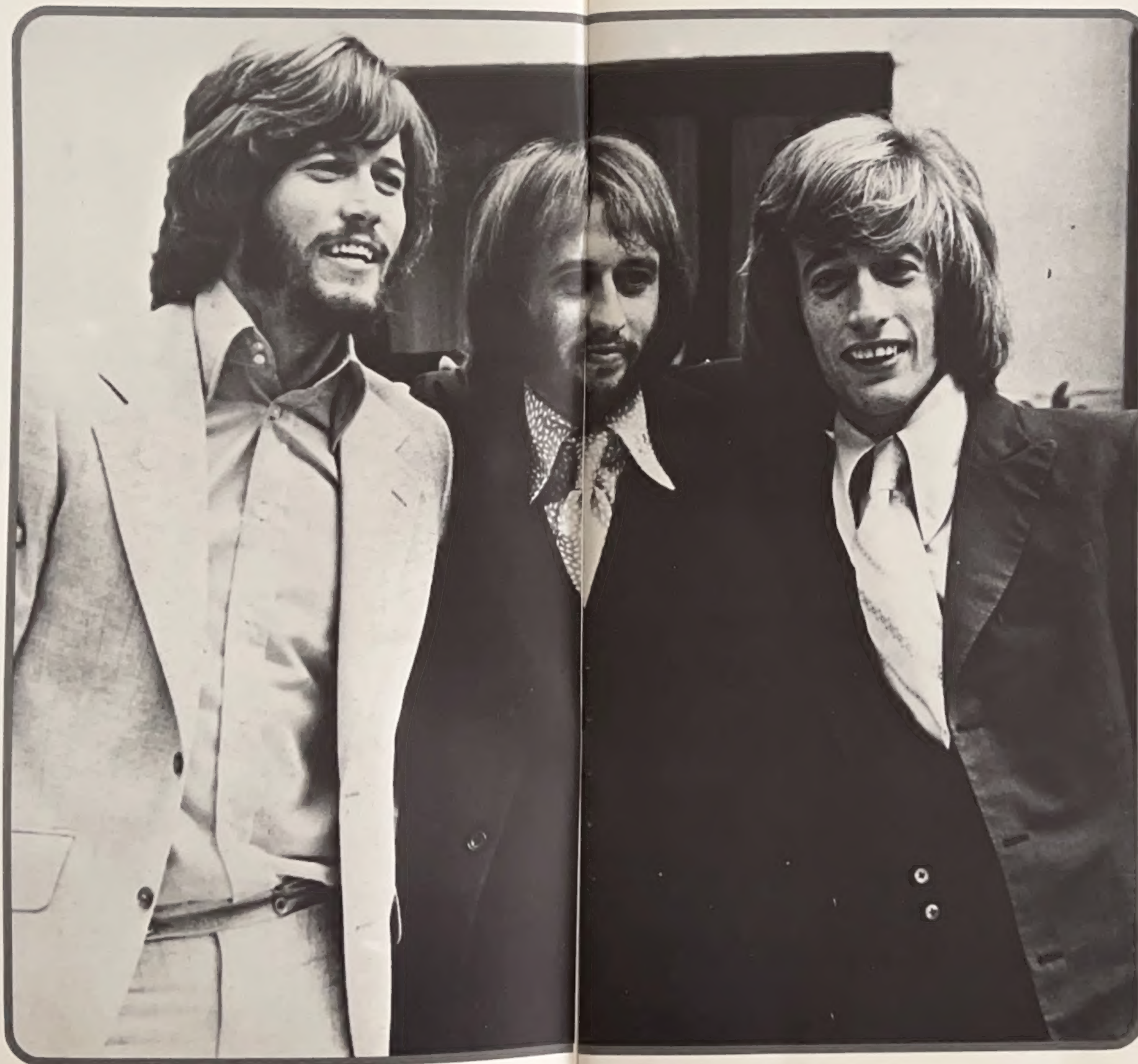


ポリドール株式会社



◎THE BEE GEES◎ ビー・ジーズの魅力

ビー・ジーズはステージでギターをこわしたり、飛び上ったり、奇抜なオーバー・アクションで視覚的に訴えるグループではない。にもかかわらず、デビューするやいなやイギリスでの“第2のビートルズ”と大騒ぎされ、間もなくそのセンセーションは全世界に波及、様々な曲折を経てなお、今だにトップ・グループにランクされ、世界中に多くの熱烈な支持者を持っている彼らの人気の秘密一魅力は？とみてゆくと、結局、しごく当然なことながら、その音楽性に帰結するものである。ビー・ジーズが早なる1発展、ビートルズの亜流で終らなかったのも、ルックス、ステージ栄えを超越する“オリジナリティー”を彼らがもっていたからに他ならない。レノン＝マッカートニーと称されるギブ兄弟の作詞作曲、そして演奏、アレンジ、プロデュース、歌、コーラス……における才能は年々、芽えをみせ、今では崇高な感じさえ抱かせる。デビュー当時のビー・ジーズ・サウンドは、確かにビートルズの影響が強くみられるが、次第に“これぞビー・ジーズ”という感じになり、LP「オデッサ」あたりから現在のオトに通じるオリジナリティーが濃くなってきた。初めは個性的すぎてとっつきにくかったあの声も、さき慣れてくるとかえって、“あゝ、ビー・ジーズだナァ！”という感じでなつかしくさえてくる。それは又、ニクイほどウマイのだ。ロビン・ギブの、あのよくヴィブラートするなめらかな、音域の広い声と、ロビンをちょっとかすれさせたようなハスキーなバリー・ギブの、独特の声のまざり合い——そこには見事なまでの美しいハーモニーが生まれ、メロディックな世界が広がる。メロディアスな曲と美しいハーモニーとくると、ともすれば“甘さ”が鼻につき、長いうちには飽きがきそうだが、そこは彼らの音創りのうまさで充分カバーされ、鼻につくイヤ味はミジンも感じられない。



底をぬうように流れるストリングスを含めたさり気ないアレンジで、あれ程までに甘さとノスタルジアを微妙にふれ合ったオトを創り出すあたり、やはりギブ兄弟は“タダモノ”ではない。

彼らのもつ特徴の1つに、録音の仕方がある。ストリングスの録音の仕方、ピアノの音のとり方、生ギターの生かし方……etc、一見シンプルにきこえる彼らの曲は、1つ1つのオトの積み重ねが濃くて、そういう意味ではビー・ジーズのオトは“ヘヴィー”だと言える。この“オトの濃さ”が甘さをセーブし独特のビー・ジーズ・サウンドの主軸となっている。彼らはデビューした頃から、レコーディングの時だけでなく、コンサートにも大編成のオーケストラを同行していた。このことから、ビー・ジーズがいかに自分達のオトを大切にしているかが分かっていうものだ。

古い資料を読み返してみると、ビー・ジーズの2大柱、バリー＆ロビン・ギブはベートルズ、ビートルズ、バカラック＝デビッドが好きというのにぶつかった。このことは、如実に彼らのサウンドに表われている。そして、それらを自分達の血と肉にして、同等に、あるいは先達以上になってしまったビー・ジーズとは、やはり大した男達だ。あの、名曲揃いのたくさんのヒット・ナンバーや、シングルにはカットされなかったアルバム中の佳曲などを含めて、日本初のステージが、どのように構成されているのか、全く楽しみである。特に、再編成されて以後のビー・ジーズのレコードは、どれもセクシーなヴォーカルがフィーチャされていて、ステージをきいて新たに泣かされるファンが続出することだろう。

＜ミュージック・ライフ編集長：星加ルミ子＞

THE BEE GEES プログラム

当日のプログラムは下記の曲目のなかから選ばれます



●ニューヨーク炭鉱の悲劇

NEW YORK MORNING DISASTER 1941

1967年2月、本国のイギリスに戻ったビー・ジーズは、ロバート・スティグウッドをディレクターに新しいスタートを切ります。その年の夏に発表したデビュー・シングルがこの曲。この頃から、トータルなビー・ジーズ・サウンドが完成していたのです。

●ラヴ・サムバディ

TO LOVE SOMEBODY

'67年秋に発表されたヒット曲。ハーブのイントロから導かれるビートニックな世界、ドラマティックに歌い上げられるこの作品はビー・ジーズの魅力を余すことなく伝えています。

●サムバディ・ストップ・ザ・ミュージック

SOMEBODY STOP THE MUSIC

マイルドなイントロダクションから、ビートニックなコーラス・サウンド。そのコンビネーションが見事な作品です。

●ワーズ

WORDS

「ワールド」に続いてヒットしたのがこの曲でした。「ボクとキミとの間は、愛と言う言葉で結ばれているのだよ……」。「愛のメッセージを誇った爽やかなアンサンブル。

●ワールド

WORLD

「マサチューセッツ」や「ホリディ」が日本でヒット、'68年の秋、彼等の人気は、もはや世界的なものとなっていました。ハードな中に、何かとろけるような甘い「ワールド」に引き込まれてしまいます。

●傷心の日々

HOW CAN YOW MEND A BROKEN HEART

最新アルバム「トラファルガー」に収められており、シングルとしても、昨年の8月、ミリオン・セラーを記録しています。ダイナミックな構成、爽やかなアンサンブルが印象的なのです。

●マイ・ワールド

MY WORLD

ビー・ジーズの最新曲。「私の世界は、貴女の世界……それは、全て私のもの……」。「ビー・ジーズの心暖まる世界が広がってくるのです。

●獄中の手紙

I'VE GOTTA GET A MESSAGE TO YOU

ビー・ジーズ・サウンドの一つとして、高音部を生かしたコーラス・アンサンブルが挙げられます。この曲は、その代表作になるでしょう。「ジョーク」に続いてヒットしたメッセージ・ソングです。

●若葉のころ

FIRST OF MAY

「小さな恋のメロディー」でも挿入されていたラヴ・ソング。数多くのアーティストに取り上げられ、今や、スタンダード・ナンバーになっています。哀愁をおびたそのメロディー・ラインは、ビー・ジーズらしい爽やかなラヴ・サウンスなのです。



●マサチューセッツ

MASSACHUSETTS

'68年、日本でも爆発的な大ヒットを当てた記念すべき作品。ストリングス・アレンジから、もう文句のつけどころがありません。ビー・ジーズと云ったら、まず、この曲が出てくるほどの最高傑作です。

●ロンリー・デイ

LONELY DAYS

メランコリックなヴォーカル・アンサンブル、それは、まるで湖に映えた太陽の輝き。メッセージに溢れるばかりの熱唱が聞ける事でしょう。二年振りに再編成された時の「TWO YEARS ON」に収められています。

●想い出を胸に

DON'T FORGET TO REMEMBER

ロビンがソロ・シンガーとして独立、バリーとモーリスのデュエット・コンビの頃「キューカンバー・キャッスル」に収められています。カントリー・タッチのラブ・バラード。なんとなく、「想い出のグリーン・グラス」を思い起こします。チェレスタの音が、爽やかな哀愁をいっそう引き立ててくれるのです。



●スピックス・アンド・スペックス

SPICKS & SPECKS

この作品は、ビー・ジーズがオーストラリアを離れ、イギリスに渡る直前のヒット曲。1967年2月、イギリスでもヒットを飛ばし、そして、「ホリディ」、「マサチューセッツ」のヒットへと結ながる訳で、言わば、イギリスに於ける彼等のデビュー・シングル。「小さな恋のメロディー」でも、このリズムミカルなナンバーが挿入されていました。

●ジングル・ジャングル

JINGLE JANGLE

アメリカのバブルガム・グループ、アーチーズに同名の曲がありますが、この作品は、バリー・キブのオリジナル・ナンバー。ロシア民謡のような素材で、哀愁を持ったメロディー。フルツ調の中に、アコースティック・ギター、のしっとりとした深味のあるアンサンブルが加えられます。

●オン・タイム

ON TIME

最新曲「マイ・ワールド」のB面の作品。モーリス・キブの作ったスワンプ風の、かなりヘヴィなナンバーです。



●イン・ザ・モーニング

IN THE MORNING

映画「小さな恋のメロディー」の為に、ビー・ジーズがペンを取った作品。バリー・キブの覚えやすいメロディー・ラインは、このナンバーでも浮き彫りにされています。「雨あがりの虹。水たまり。冬の日のつらら。それは、すべて朝になると、新しい生命(いのち)。昼になっても、夕方になっても、私の人生は、朝日のような輝き……。」すがすがしい、ラヴ・サウンドです。

●そして太陽は輝く

AND THE SUN WILL SHINE

セカンド・アルバム「マサチューセッツ」に収められていたナンバー。マイナー調の印象的なメロディー、そして、ロビンの間いけるようなストレートなヴォーカル。「太陽は輝く。それは、ちょうどボクとキミのために……。そして、太陽は輝く。」

THE BEE GEES

メンバー紹介

●バリー・ギブ

- ①生年月日：1946年9月1日
- ②出生地：マン島ダグラス
- ③担当楽器：リズム・ギター、ピアノ、ハーブシコード
- ④好きなミュージシャン：ビーチ・ボーイズ
- ⑤目の色・髪の色：ブラウン
- ⑥身長：6フィート1インチ
- ⑦趣味：ハイキング、水泳、自動車
- ⑧好きな食物：ステーキ、卵



●モーリス・ギブ

- ①1949年12月22日
- ②マン島ダグラス
- ③ベース・ギター
- ④ビートルズ
- ⑤ブラウン
- ⑥5フィート7インチ
- ⑦写真
- ⑧焼いたポテト
(ロビンと双子、イギリスの人気女性シンガー、ルルと1969年結婚)



BARRY
GIBB



MORRIS
GIBB

◎THE BEE GEES◎



●ロビン・ギブ

- ①1949年12月22日
- ②マン島ダグラス
- ③ギター、ピアノ、メロディカ
- ④ビートルズ
- ⑤ブラウン
- ⑥5フィート9インチ
- ⑦歌うこと、作曲
- ⑧ベーコン、ポテト・チップ

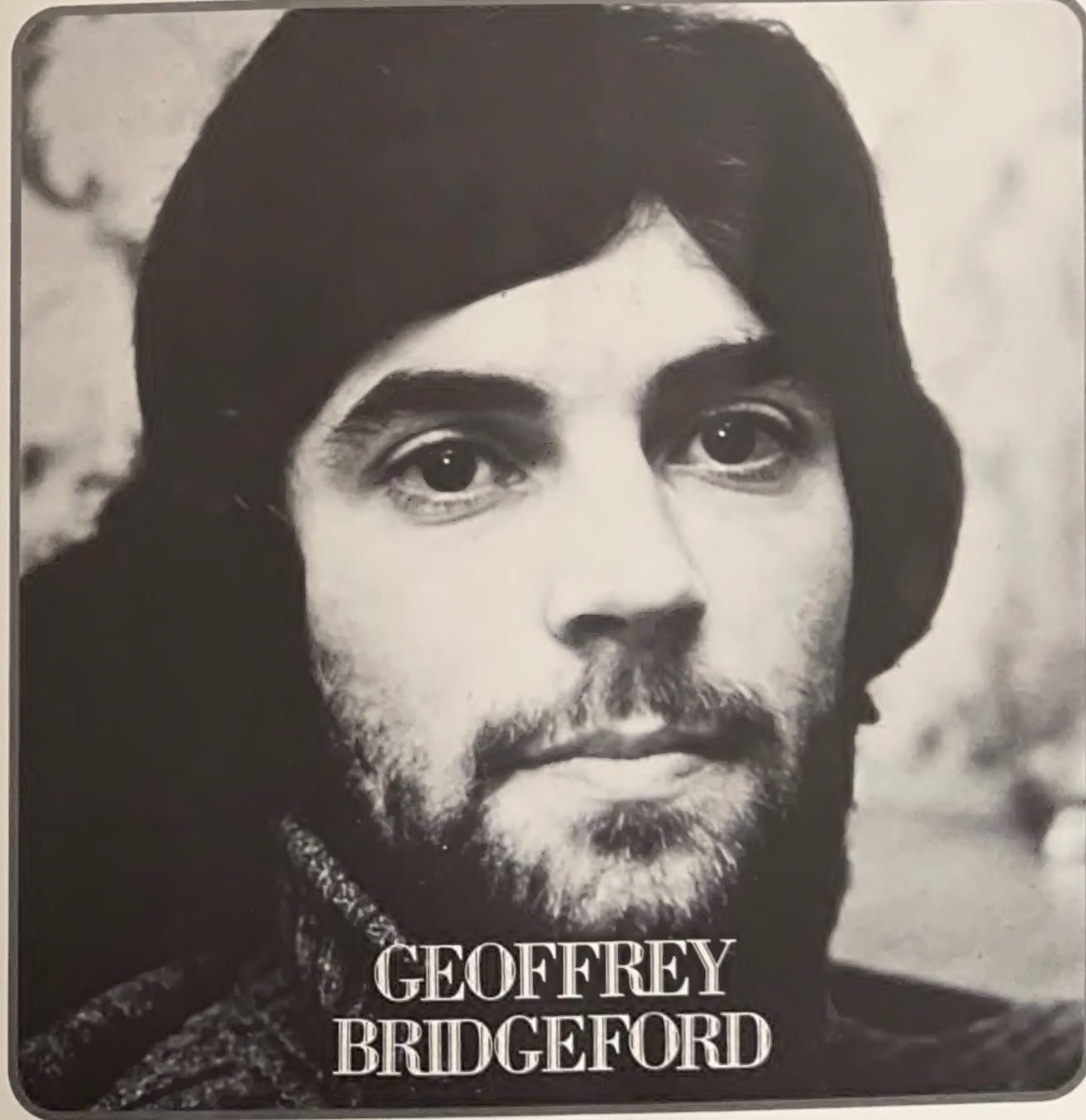
●ジョフ・ブリッジフォード

オーストラリア出身。23才。元ティン・ティン(ビー・ジーズの弟分グループと呼ばれている)のドラマー。ビー・ジーズのコンサートで時々バックをつとめたことがある。既婚一児あり。

《ミュージック・ライフ編集長：星加ルミ子》



ROBIN
GIBB



GEOFFREY
BRIDGEFORD

THE BEE GEES

対談



沢田 研二 (歌手)

2月末のある金曜日の夕方、共にレギュラーのTV番組の録画を終えた2人は、亀土町のステーキハウスで再び顔を合わせた。

ひと足先に出番の満ちた沢田研二さんは、いったん帰宅して軽装に着がえてから、うすい色のついたサングラスをかけてやって来た。TV局から直行の今野雄二さんは、お気に入りのエルトン・ジョンの顔のついたシャツを着て、手にはビー・ジーズのアルバムをかかえて来た。

今野：おつかれさま！ なんて言うともう終っちゃったみたいですけど、実は今日はビー・ジーズの魅力についてお話ししたいと思って。沢田：おつかれさま！ (サングラスをはずしながら、LPを手にとって)ここにある曲、大体、よく知ってるなあ。

今野：それ、"Best of Bee Gees"っていうアルバムで輸入盤ですけど、全部メロディと歌詞が浮かんできます？

沢田：ええと、この"Every Christian Lion Hearted Man will Show You"っていう曲以外は、全部おぼえています。

今野：あ、やっぱり。安心しました(笑)。ええと、そもそも、あなたとビー・ジーズとの出会いのあたりから……

沢田：まだビー・ジーズが日本で出る前からなんですけど、シロー(岸部)がFENで「ホリディ」をテープに取って聞かしてくれました。

今野：という、もちろんタイガース時代？

沢田：そう、まだシローがグループに入る前で、情報係みだったとき。とにかくそのメロディのきれいさとか……新鮮だったんですね。

今野：たとえばその「ホリディ」にしろ、ビー

・ジーズっていうのはどうなんですか、いわゆるレパトリーとして？

沢田：メロディ・ラインだけを追求してたんですけど、その分にはやさしかったみたい。今から思えば、ほら、何て言うか、一見「簡単風」でね(笑)

今野：オーケストラなんかも使ってたっけ？

沢田：オーケストラの部分はオルガンの音でコピーしてやってました。

今野：ぼくなんかはひとりのタイガースって、何となくビー・ジーズ的っていうか、ビー・ジーズをかなり意識している感じがしたけれど……

沢田：そうね、「花の首飾り」なんか、ほんとうにそうね。それと、トッポ(加藤かつみ)は声の質からロビンのあの声に強烈に惚れ込んでましたしね……

今野：ここで「スマイル・フォー・ミー」の話をぜひ！

沢田：この曲は彼らが吹き込んだオーディション・テープをまず、聞かせてもらったんです。何か、気軽に、淡々と吹き込んでる、って感じてたね。

今野：そうそう、それ！ ビー・ジーズっていうのはいつもどこかで押えているっていう感じありますね。だから絶対に感情を爆発させないで、淡々と歌ってるみたいな魅力が……沢田：ぼくも、その方がとっても好きです。それだからこそ、あの哀しみのこもった歌声の味が生きてくるんでしょうね。

今野：悲しみ、っていうよりも哀しみ、っていう感じね。あんまりセンチメンタルべったりじゃなくて……

沢田：そうですね。

今野：あなたの「君を乗せて」も、ほんとうはビー・ジーズみたいに淡々と歌うところを聞きたいんだけど……

沢田：そうなんです！ ぼくもほんとうは力まずに淡々と歌ってみたいんだけど……いつも力を出す一歩手前でやめるようにはしてあるんだけど……でも、日本人がこれを見ると、ふてくされてと思われかねないしね。日本人の場合はやっぱり「泣き」が入らなきゃ……

今野：ふうん、なるほどね！ ほんとうにそうかもね。それから、ビー・ジーズという、いつもあのオーケストラのバックのサウンドが印象的で、ぼくなんか低音のストリングスが大好きなんです。

沢田：シローがアメリカで彼らのステージを見たときは、ステージの前に、オーケストラ

ビットかも知れないけれど、とにかく100人近いオーケストラがずらっと、すごかったらしいですよ。

今野：ごく最近、エルトン・ジョンのアレンジで有名なポール・バックマスター、あの人が昔はビー・ジーズの公演用オーケストラでチェロを弾いていた、っていう話を何かで読んだんですけどね。

沢田：そういえば、どっか似かよったサウンドがありますね、オーケストラのアレンジに。直接関係あるかどうかかわからないけれど……

今野：ぼくも、何らかの形で関係あるような気がしてならないんだけど……

ここで話を「スマイル・フォー・ミー」にもどしましょう(笑)

沢田：この曲は確か、ビー・ジーズ自身もレコーディングしてないはず。バリーに会ったとき、彼に「スマイル・フォー・ミー」のこと聞いても一瞬、知らない顔してたもの。

今野：えっ？ ビー・ジーズに会ってるんですか？

沢田：バリー・キブ個人にね。タイガースのとき、ロンドンに吹き込みに行ったんですけど、そのときロバート・スティグウッドの家に招待されて、そこでバリーに……

今野：スティグウッドって、あのロックの太プロデューサーですよ。偶然、それともスティグウッドのアレンジですか、バリーに会えたのは？

沢田：スティグウッドが、たぶん今日あたり来るから、よかったらって言ったんで。その頃はそんな感激もなくって……いまならもっと感激したかもね。

今野：どうでした、実際に会ったバリーって？

沢田：写真で見るとより細おもてで、実物の方がカッコよかった。やっぱり、かなり圧倒されましたね。オーストラリア時代に作ったLP、聞かせてくれたり、奥さん同伴だったけど鉄砲持ってたそれを撃たしてもらったり……

今野：猟銃がなんかさ、射的場かどっかでですか？

沢田：いや、向うじゃ有名になったり大物になると持てるらしくて、護身用のピストルですね、それをスティグウッドの邸の中庭で。今野：ところで、それは大体、いつ頃のことになりますか？

沢田：タイガースがこっちに帰って来た直後に、ロビンのソロ・レコードがヒット・パレードで1位になったっていうから、ロビンがビー・ジーズから独立したときですね。

今野：このグループは、そのロビンの独立のあたりから、解散しそうでしなかったり、そ

の後でまたロビンが戻って3人になったり、とにかく変動が多いんですけど、あなたの好きなビー・ジーズってどのへんですか？

沢田：「ニュー・ヨーク炭鉱の悲劇」とか「アイ・キャン・シー・ノーボディ(誰も見えない)」なんか、初期のもの。

今野：ほくは「トゥ・ラブ・サムバディ」とか「アイ・スターティド・ア・ジョーク」とか、割と後でジャズ・シンガーなんか取りあげているのを聞いて、改めてオリジナルのビー・ジーズを聞き始めたようなものなんです。

沢田：ぼくはビー・ジーズのアルバム、殆んど持ってるけど、ファースト・アルバムが大好き。最初の印象がやっぱり強烈だったんですね。それと、ロビンが入ってるのに入ってないのとは、全然違いますね。

今野：そう言えばあなた自身、タイガースの後、ビッグのメンバーになり、最近じゃソロ・シンガーとしての活躍がもっぱらだけど、その辺でどうですか、ロビンの独立したかった気持なんて？

沢田：ぼくの場合とロビンとは全然違うから、うーんと、わからないですね。ぼくの場合は、ひとりて歌いたい！ってそれほど思ってるわけじゃないから……

今野：なるほどね。それからもうひとつ、ぼくの感じだけど、ビー・ジーズのある種の甘さっていうのが、何となくあなたにも通じるような気がするんだけど、ファン層が似かよっているっていうこと、あるでしょう？

沢田：そうですね。それは自分でも感じます。

今野：今度はね、シンガー・ソングライターとしての沢田研二さんに聞きたいんですけど、どうですか、そういう目を見たビー・ジーズって？

沢田：「マサチューセッツ」が大ヒットしたとき、B面に「ホリディ」が入れられて、何てまた、とがっかり(笑)。というのは、「マサチューセッツ」はメロディアスで、全体が流れるようにつながって、よくあるヒット曲タイプだけど、「ホリディ」は歌詞から歌詞へ移る間の感じ、そのときのバックの音の感じがすごく好きなんです。

今野：そうしたビー・ジーズのサウンドの魅力が、作曲家としてのあなたに影響を与えたなんていうこと、ある？

沢田：「若葉のころ」から2小節くらい、拝借したことがあります(笑)

今野：それが何という作品だか、聞いても良い(笑)？

沢田：ロック・パイロットの歌ってる「青春の祈り」のサビに、チラッとわからないくらい

に(笑)

今野：それじゃ、こんどの来日でビー・ジーズの面々に会うことができたなら、いろいろ作曲家として聞いてみたいことがあるんじゃない？

沢田：うーん。あんまりなさそう。レコードを聞いて参考にするから……

今野：作品はもうどのくらいになりました？

沢田：30曲くらい。自作自演はそのうち10曲もないけれど……シンガー・ソングライターをめざして、いま阿もためているんです

今野：いまよく聞いているレコードは？

沢田：ニール・ヤングとかエルトン・ジョン。

今野：ほんとう！ これはまさにぼくと同じですね。ああ、うれしくなっちゃった(笑)。まあ、ニールやエルトンと話となると愚のりしそうなんて、それは又の機会にゆずるとして、この辺で、ビー・ジーズの日本公演への期待など……

沢田：ファースト・アルバムのレパトリー、特に「アイ・キャン・シー・ノーボディ(誰も見えない)」は絶対にやってほしい。

今野：彼らは割と地味なグループって言われているけれど、ステージはどんなふうでしょうね。

沢田：やっぱり、どっちかというレコードで聞くと良いんじゃないかと思うんだけど、たぶん、レコードと同じにやるでしょう。

今野：スポットがボツン、ボツンとあつてじっくり歌だけを聞かせる感じになるでしょうね。

沢田：意外に動きまわったりして……

今野：ロックン・ロール・マドレーなんかやり出して、ど肝抜くようなことがないとは限らない(笑)

沢田：派手さがあんまりないグループですからね……

今野：何か、ショー・アップする為のアイディアを見せてくれそうな気もするんです。

沢田：ヨーロッパ的な、粋なアイディアで、たとえば建物がやたらと長かったりしてね(笑)

今野：聞くところでは、オーストラリア公演では、熱狂した観客がステージに殺到して事故が起きたとか、信じられないけれど……沢田：強烈！っていうイメージよりも、椅子なんかにかかかって、じっくり聞かせて、何かじーんとくるんじゃないか、っていう期待の方が大きいですね。

話し終った2人は、それぞれサングラスをかけ、アルバムをかかえ、こんどはほんとうの「おつかれさま！」を言い合って、別れて行っ



今野 雄二 (音楽評論家)

た。ビー・ジーズのロマンティックな音楽の話題の後で、六本木の街は2人にとって少しばかり騒がしかったかも知れないけれど……



THE BEE GEES

ビー・ジーズのおいたち

ビー・ジーズのアメリカでのデビューは1967年5月のことであった。しかし、それよりもっと以前、オーストラリアではすでに、“ビー・ジーズ”は人気グループのひとつとしてヒット・パレード界の常連となっていたのだ。

1946年9月1日、バーバラ、ヒュー・ギブ夫妻の間に長男のバリーが誕生。3年後の1949年12月22日にはロビンとモーリスの双子の兄弟が生まれ、かくしてギブ3兄弟が揃った。彼等が生まれたのは、オート・レースで有名なマン島のダグラスという所だった。バリーが9才、ロビンとモーリスが6才の時、3人はアマチュアのロック・グループを結成。彼等のステージ・デビューは、マンチェスターにあったゴモント・プリティッシュ劇場で、毎週土曜日の朝、少年達の為に開かれるコンサートだった。

1958年、ギブ一家はマンチェスターを離れ、オーストラリアに移住することになりイギリスを後にした。一家が落ち着いたのはブリスベーンという小さな街で、そこで早くも、バリー、ロビン、モーリスの3兄弟はラジオ番組に出演するチャンスをつかんだ。ブリスベーンのローカル・ステーション・4KQという放送局の“タレント・ゲスト”というのが、その番組だった。そして、それから2年後の1960年3月、彼等はブリスベーンのABC-TVからテレビ界へとデビューした。そして、この時に認められたのか、30分の番組にレギュラー出演が決まったのだった。この時バリーは12才、ロビンとモーリスは9才であった。

この若くて新鮮なグループに、オーストラリアのレコード会社が目をつけたいわけがなく、1963年1月、フェスティバル・レコードから初めてのレコードが発売された。タイトルは“Three Kisses of Love”、勿論ギブ兄弟の作詞作曲のナンバーだ。

この“Three Kisses of Love”はオーストラリアのヒット・パレード界でヒットし、その後“Timber”“Peace of Mind”“Claustrophobia”等々、続々とヒット・レコードを生んだのだった。特に1965-67年の2年間の活躍は目覚ましいものがあり、65、66年2年連続で彼等の自作自演のレコードが“最優秀作品賞”に選ばれ、又66年は、“最優秀オーストラリア・グループ”に選ばれた。勿論、レコードもヒット・パレード界をにぎわせ“Wine And Woman”“I Was A Love A Leader of Men”“Spicks And Specks”等がヒットした。

そんな彼等が、イギリスにのり込んだのは1967



年2月のことだった。この有望なオーストラリア出身のグループに、いち早く目をつけたのは、現在ロバート・スティグウッド・オーガニゼーションを設立、当時、ブライアン・エプスタインが主宰していたネムズ・エンタープライズにいたロバート・スティグウッドであった。スティグウッドは、彼等と5年間の契約を結び、新メンバーとして、やはりオーストラリア出身のコリン・ピーターセンをドラマーとして迎え、かくしてビー・ジーズの誕生となったのである。

1967年5月、デビュー曲“ニューヨーク炭鉱の悲劇”がアトコ・レコードから発売された。ちまち、英米両国のヒット・パレードを急上昇し、ビー・ジーズは、いちやく世界のビー・ジーズへと飛躍を遂げた。そして、その後発売された“ラヴ・サムバディ”“ホリデー”

“マサチューセッツ”等の曲は、ことごとくヒットし、特に“マサチューセッツ”は我が日本においては空前絶後のヒットになったことは御存知だろう。

その後も“ワールド”“ワーズ”と順調にヒットは飛ばしたものの、69年ピンス・メロニーがグループを脱退、追い打ちをかけるようにロビンがソロとして独立、ビー・ジーズはトリオとしてやっていくことになった。そしてロビンはソロで“紋いの鐘”をヒットさせ、ビー・ジーズは“トゥモロウ・トゥモロウ”をヒットさせた。

しかし69年末にはコリン・ピーターセンも脱け、グループはバリーとモーリスの2人になってしまい、もはやビー・ジーズもこれまでと思いきや、70年初め、2人で“キューカンバー・キャッスル”というTV用のミュージカルに主演し、健在ぶりをしめした。モーリスがイギリスの人気女優シンガー・ルルと結婚したのも、この頃のことである。2人組となったビー・ジーズの所へ、さきに独立したロビンがもどって来たのは70年秋だった。再び3人となり、兄弟の堅いさなで結ばれた彼等が、その年の暮れから71年の初めにかけて制作したアルバム“トゥー・イヤーズ・オン”は全く素晴らしい出来ばえて、ビー・ジーズ・ファンを喜ばせ、再びビー・ジーズは、大きく活動を開始し出した。そして、このアルバムの中からシングル・カットされた“ロンリー・ディ”は71年1月にヒット・パレード第1位となった。世界的人気を盛り返した彼等は、71年に入ると、新メンバーとして、やはりオーストラリア出身のドラマー、ジョフ・ブリッジフォードを迎え4人組となった。ジョフは元ビー・ジーズの弟分的バンド“ティン・ティン”のドラマーとして活躍していたミュージシャンであった。

そうして、発表された最新アルバム“トラファルガー”は長いキャリアと、実力につちかわれたビー・ジーズ・サウンドが見事に開花したアルバムとして、又もや全世界で話題を呼んでいる。

日本でも、昨年、“小さな恋のメロディー”の主題歌“メロディー・フェア”の驚異的ヒットを放ち、増々人気上昇！ 美しいハーモニーと魅惑的なメロディー。ビー・ジーズは今や、最も実力のある、最も人気のある、そして最も魅力的なグループのひとつであるといえる。

〈ミュージック・ライフ編集長：星加ルミ子〉

THE BEE GEES

ディスコグラフィ



●ザ・ビー・ジーズ・ファースト
MP-1379 ¥1,750 (68年1月)
ザ・ビー・ジーズがイギリス・ポリドールからリリースした1P第1弾。彼等のすばらしいハーモニーが聞きどころ。
☆「ニューヨーク炭鉱の悲劇」(ホリデー)「ラヴ・サムバディ」(アトコ)「ワーズ・マサチューセッツ」(ポリドール) 他全14曲



●スピックス・アンド・スペックス/ザ・ビー・ジーズ
MP-1424 ¥1,750 (69年2月)
オーストラリア時代の大ヒット「スピックス・アンド・スペックス」を含むザ・ビー・ジーズの初期の作品集。
☆「スピックス・アンド・スペックス」(セカンド・ハンド・ビートル)「月曜の朝」(シングル・ジャングル)「ガラスの家」 他全12曲



●ビー・ジーズ・ヒット・アルバム
MP-1444 ¥1,750 (69年8月)
これもオーストラリア時代のものでフェスティバル・レコードから発売された1P。他のロック・グループの影響が強く出てい
☆「ワインと女」(子供たちの笑顔)「アイ・アム・ザ・ワールド」(思は真実)「ピンス・オブ・マインド」 他全11曲



●紋いの鐘/ロビン・ギブ
MP-2081 ¥2,000 (70年6月)
ロビン・ギブがザ・ビー・ジーズを離れソロとなってヒットさせた「紋いの鐘」を含む、ギブのソロ・アルバム。
☆「紋いの鐘」(夏と秋の間に)「ははみ」を後に「読みく」(太田)「ウィークエンド」(ゴーン・ゴーン・ゴーン) 他全11曲



●ロンリー・ディ/ザ・ビー・ジーズ
MP-2165 ¥2,000 (71年5月)
ロビン・ギブが再びビー・ジーズに戻り、ザ・ビー・ジーズ再結成第1弾、全米ヒット・チャート第1位を記録した「ロンリー・ディ」を含むギブ3兄弟のアルバム。
☆「ロンリー・ディ」(トゥー・イヤーズ・オン)「バック・ホーム」(はじめての涙)「テル・ミー・ホワイ」 他全12曲



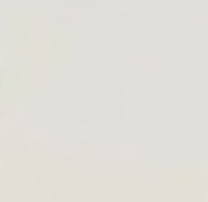
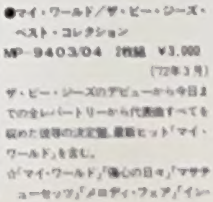
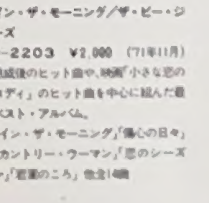
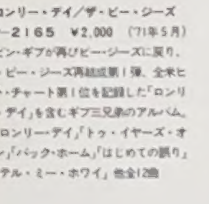
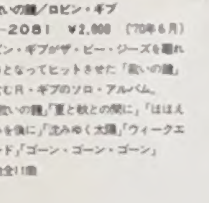
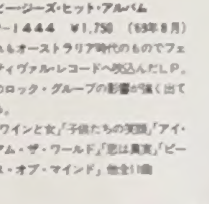
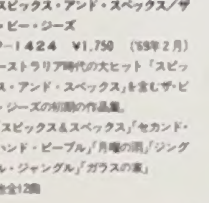
●イン・ザ・モーニング/ザ・ビー・ジーズ
MP-2203 ¥2,000 (71年11月)
再結成後のヒット曲や、映画「小さな恋のメロディー」のヒット曲を中心に組んだ最新ベスト・アルバム。
☆「イン・ザ・モーニング」(傷みの日々)「カントリー・ウーマン」(思のシーズン)「恋のころ」 他全14曲



●マイ・ワールド/ザ・ビー・ジーズ・ベスト・コレクション
MP-9403/04 2枚組 ¥3,000 (72年3月)
ザ・ビー・ジーズのデビューから今日までの全ベスト・アルバムから代表曲すべてを収めた彼等の決定盤、最新ヒット「マイ・ワールド」を含む。
☆「マイ・ワールド」(傷みの日々)「マサチューセッツ」(月曜の朝)「アイ・アム・ザ・ワールド」(思は真実)「ピンス・オブ・マインド」(ガラスの家) 他全24曲



●ザ・ビー・ジーズ・ゴールデン・アルバム
MP-2037 ¥2,000 (68年11月)
彼等の大ヒット曲「マサチューセッツ」を含む、5人時代のベスト・アルバムで日本だけの発売。
☆「マサチューセッツ」(ホリデー)「ワーズ」(ワールド)「思は真実」(ピンス・オブ・マインド)「ガラスの家」 他全14曲



●アイディア/ザ・ビー・ジーズ
MP-1414 ¥1,750 (68年12月)
ジャケットが彼等5人の顔の部分をそれぞれ組合せた面白いもの。このLPから大ヒット曲「恋のころ」(シングル)がカット。
☆「恋のころ」(シングル)「恋のころ」(シングル)「恋のころ」(シングル)「恋のころ」(シングル) 他全14曲

●オデッサ/ザ・ビー・ジーズ
MP-9305/06 2枚組 ¥3,000 (69年6月)
ザ・ビー・ジーズのトータルLP、丁度ウィンス・メロニーが離れた時の作品で、ギブ3兄弟とC・ピーターセンの4人のLP。
☆「オデッサ」(メロディ・フェア)「恋のころ」(シングル)「恋のころ」(シングル)「恋のころ」(シングル)「恋のころ」(シングル) 他全17曲

●ザ・ビー・ジーズ・ゴールデン・ダブル・アルバム
MP-9317/18 2枚組 ¥3,000 (69年11月)
ザ・ビー・ジーズの第1期黄金時代における2枚組ベスト・アルバム。再結成以前のヒット曲は全て収めてある。
☆「マサチューセッツ」(ホリデー)「ワーズ」(ワールド)「思は真実」(ピンス・オブ・マインド)「ガラスの家」 他全24曲

●キューカンバー・キャッスル/ザ・ビー・ジーズ
MP-2088 ¥2,000 (70年7月)
イギリスのTV映画「キューカンバー・キャッスル」のサウンドトラックで、バリー・ギブとモーリス・ギブのデュエット・アルバム。
☆「アイ・オー・アイ・オー」(思は真実)「アイ・オー・アイ・オー」(思は真実)「アイ・オー・アイ・オー」(思は真実)「アイ・オー・アイ・オー」(思は真実) 他全12曲

●小さな恋のメロディー (オリジナル・サウンド・トラック)
MP-2172 ¥2,000 (71年6月)
大ヒット映画「小さな恋のメロディー」のサウンドトラックで、この中から71年の大ヒット・シングル「メロディー・フェア」がカット。またCINEMAの「チャーチ・オブ・ザ・ドレン」が追加されている。
☆「メロディー・フェア」(イン・ザ・モーニング)「ラヴ・サムバディ」(恋のころ) 他全14曲

●トラファルガー/ザ・ビー・ジーズ
MP-2215 ¥2,000 (72年1月)
再デビュー後に放った彼等の第2弾、内容的に大躍進となり、彼等独自のサウンド作りやハーモニーはたまらない魅力。
☆「トラファルガー」(傷みの日々)「ワーズ」(ワールド)「思は真実」(ピンス・オブ・マインド)「ガラスの家」 他全12曲

●マイ・ワールド/ザ・ビー・ジーズ・ベスト・コレクション
MP-9403/04 2枚組 ¥3,000 (72年3月)
ザ・ビー・ジーズのデビューから今日までの全ベスト・アルバムから代表曲すべてを収めた彼等の決定盤、最新ヒット「マイ・ワールド」を含む。
☆「マイ・ワールド」(傷みの日々)「マサチューセッツ」(月曜の朝)「アイ・アム・ザ・ワールド」(思は真実)「ピンス・オブ・マインド」(ガラスの家) 他全24曲

〈ボリドール：塩田真弘〉

THE BEE GEES

ビー・ジーズの年代譜

誕生から現代まで

1945

8月16日 ●元メンバーのビンス・メロニー、オーストラリアのシドニーで生まれる。

1946

3月24日 ●元メンバーのコーリン・ピーターセン、オーストラリアのクイーンズランドで生まれる。

1948

5月2日 ●現トーマス・ジョフ・ブリッジフォード、オーストラリアで生まれる。

1949

12月22日 ●ロビン・ギブ、モーリス・ギブの双子の兄弟誕生。

1956

●ギブ兄弟、アマチュア、ロック・グループを結成。

1958

●ギブ一家、イギリスからオーストラリアのプリズベーンへ移住。

●プリズベーンのローカル・ステーション4KQの「タレント・ゲスト」という番組に出演。

1960

3月 ●プリズベーンのABCテレビから30分のレギュラー番組「Anything Goes」に出演。

1963

1月 ●ギブ兄弟「三つのキス」(Three Kisses of Love)「バリー作曲」でフェスティヴァル・レコードからデビュー。

●「三つのキス」に続く第2弾「ティンバー」(Timber)を発売、この曲はオーストラリアでビッグ・ヒットとなり、ギブ兄弟の名を一段と高める。

●第3弾シングル「閉所恐怖症」(CLAUSTROPHOBIA)を発売。

1964

●「ワインと女」(Wine And Woman)、「アイ・ワズ・ア・ラヴァー」(I was a Lover)のシングルがたて続けにヒット。

●この頃、前記のヒット曲を取ったLP「ビー・ジーズ若き日の思い出」(ビー・ジーズ・ヒット・アルバム「オーストラリアの思い出」)をフェスティヴァル・レコードからリリース。

●オーストラリアで「最優秀作品賞」を受賞。

●オーストラリアで65年に続き2年連続「最優秀作品賞」を受賞、更に最優秀オーストラリア・グループに入られる。

1965

●オーストラリア時代最後のヒット曲「スピックス・アンド・スピークス」(Spicks & Specks) No.1となる。

【この曲はイギリスでのデビュー盤となり、オランダでもNo.1のヒット曲になる。】

●ギブ一家、オーストラリアから再びイギリスにもどる。

1966

2月24日 ●ビートルズのマネージャーであった故ブライアン・エプスタインが主宰していたナムス・エンタープライズのマネージング・ディレクター、ロバート・ステグウッドと5年間の契約を結びオーストラリア生まれのコーリン・ピーターセン、ヴィンス・メロニーを加え、ビー・ジーズ、デビュー。

5月5日 ●「ニューヨーク炭鉱の悲劇

(New York Mining Disaster 1941)」を発売、同時にアトコ・レコードと25万ドルの契約を結ぶ。

5月20日 ●同曲「メロディ・メーカー」(以下MM紙と略す)で17位にランク。

5月26日 ●同曲「キャッシュ・ボックス」(以下CB紙と略す)で17位にランク。

7月1日 ●同曲CB紙で最高17位、「ビルボード」誌(以下BB紙と略す)では14位。

●オーストラリア国籍のままイギリスで演奏してはいけないということでファン騒ぐ。

●ギブ兄弟、映画「Lord Kitchener's Little Drummer Boys」に出演の為、アフリカへロケに行くという話がある。

8月26日 ●シングル「ラヴ・サムバディ」(To Love Somebody)「日本でのデビュー曲」CB紙で25位、BB紙では17位まで上昇。

9月2日 ●同曲CB紙で24位にランク。

10月14日 ●オーダーだけで25万枚を突破した「ホリデイ」(Holiday)CB紙で48位。

10月21日 ●日本でも最大のヒット曲となった「マサチューセッツ」(MASSACHUSETTS)「ニュー・ミュージカル・エクスプレス」誌(以下NME紙と略す)、MM紙で共に第1位となる。

11月4日 ●アメリカでは「ホリデイ」がCB紙で14位、BB紙で21位。

11月22日 ●NME紙に「ワールド」(World)初チャート19位。

11月25日 ●MM紙でも同曲27位に初チャート。

12月9日 ●「マサチューセッツ」CB紙で11位。

1月 ●アメリカでは予約注文だけで10万枚を突破したデビュー・アルバム「ザ・ビー・ジーズ・ファースト」(ニュー・ヨーク炭鉱の悲劇、ホリデイなど全14曲収録)日本でも発売、シングル「マサチューセッツ」も大ヒット。

●休暇を利用してガール・フレンドのモーリー・フリーズと一緒に旅行をしていた時、乗っていた列車が転覆、49人の死者を出したが、2人は無事。

1月31日 ●MM紙で「ワーズ」(Words)25位に初チャート。

2月2日 ●初めてのアメリカ公演をハリウッド近くのアナハイム・コンベンション・センターで2回行う。

●その収益は2万5千ドル以上にのぼり、彼らは公演後1週間カリフォルニアに滞在。

2月17日 ●「ワーズ」CB紙で最高27位まで上昇。

2月26日 ●ビー・ジーズのミュージカル・ディレクター、ビル・シェファードが指揮する20人のイギリスのミュージシャンからなるオーケストラと共にドイツ公演を行う。【3月12日まで】

3月29日 ●イギリス、リーズのタウン・ホールでコンサート。【ゲストはグループ・ブルーーツ、ディ・ディ・ダグ

ーブ、なお4月21日から27日までファウンディションズ】

3月30日 ●チェスター・ABCにてコンサート。

3月31日 ●マンチェスター・パレスにてコンサート。

4月1日 ●レチェスターのドゥ・モン・ホール・ホールにてコンサート。

4月4日 ●ケンブリッジのリーガルにてコンサート。

4月5日 ●スロウのアドルフにてコンサート。

4月6日 ●シェフィールドのシティ・ホールにてコンサート。

4月7日 ●バーミンガムのハイボドローにてコンサート。

4月10日 ●カーライスルABCにてコンサート。

●「マサチューセッツ」「ワールド」などを収めたLP「マサチューセッツ/ザ・ビー・ジーズ」日本でも発売。

4月11日 ●グラスゴーのグリーズ・プレイハウスにてコンサート。

4月12日 ●エジンバラABCにてコンサート。

4月13日 ●ストックトンABCにてコンサート。

●シングル「ジャンボ」(Jumbo)MM紙で27位にチャート。

4月14日 ●リバプールのエムバイアにてコンサート。

4月17日 ●ボーツマスのガイド・ホールにてコンサート。

4月19日 ●ハンリーのゴモントにてコンサート。

4月20日 ●バルトンのオデオンにてコンサート。

●CB紙で「ジャンボ」54位、BB紙では51位。

4月21日 ●ハルABCにてコンサート。

4月22日 ●リンカーンABCにてコンサート。

4月24日 ●サリベリーのオデオンにてコンサート。

4月25日 ●リンフォードのオデオンにてコンサート。

4月26日 ●エクスターのオデオンにてコンサート。

4月27日 ●カーディフのキャピトルにてコンサート。

4月28日 ●トウーティングのグラナダにてコンサート。

5月1日 ●コークのリヴイにてコンサート。

5月2日 ●ダブリンのアドルフにてコンサート。

5月3日 ●ベルファーストABCにてコンサート。

6月11日 ●ドラマーのコーリン・ピーターセン、マネージャー秘書のジョン・ニュートン(23才)と結婚。

7月末 ●アメリカへコンサート・ツアーに向かう予定がロビン・ギブのノイローゼで延期。

8月2日 ●イギリスで「獄中の手紙」(I've Gotta Go to the Messengers to You)をリリース。

8月31日 ●同曲NME紙で2位、MM紙で3位にランク。

9月1日 ●「獄中の手紙」「ジョーク」「ジャンボ」などを収めたアルバム「アイディア/ザ・ビー・ジーズ」イギリスでリリース。

10月5日 ●同アルバムCB紙LPチャートで13位。

10月 ●「キッチン・師の小さなドラマー少年」の撮影のため

1969

ケニアへロケ。

12月 ●メンバー、オーストラリアに戻る。

12月4日 ●ロビン、18才のモーリー・フリーズと結婚。(結婚後遠慮するきっかけは、一年前の列車事故の時、ロビンが彼女を助けたということ)。

12月10日 ●LP「アイディア」日本でも発売。

12月中旬 ●モーリス、イギリスにもどりルルとの婚約を発表。

●ヴィンス・メロニー、グループを脱退。

2月8日 ●「ジョーク」(Jokey)CB紙で6位。

2月 ●脱退したヴィンス・メロニーのプロデュースにより、ニュー・グループ、アシュトン・ガードナー&ダイク、デビュー。

2月第2週 ●「若葉のころ」(First of May)イギリスでリリース。

2月18日 ●ルルとモーリス結婚。

3月1日 ●「若葉のころ」メロディ・フェアなどを収めた彼らのはじめての2枚組アルバム「オデッサ」CB紙で初ランク56位。

3月22日 ●「若葉のころ」MM紙で7位、NME紙では8位にランク。

3月29日 ●「オデッサ」CB紙で最高20位。

4月19日 ●「若葉のころ」CB紙で18位。

4月 ●ロビン・ギブ、グループを脱退。

5月28日 ●モーリス、重傷でローリス・ロイスを運転中、事故をおこし軽いケガをする。

5月31日 ●3人になったビー・ジーズのシングル「トゥモロウ・トゥモロウ」(Tomorrow Tomorrow)CB紙で51位。

6月21日 ●同曲NME紙で25位。

6月27日 ●ロビン・ギブ初のソロ・シングル「救いの鐘」(Saved by the Bell)イギリスでリリース。

●ドラマーのコーリン・ピーターセン、グループを脱退。メンバーはロビンとモーリスの2人となる。

●バリー・69年度ベスト・ドレッサーNo.1に選ばれ500ポンドの銀製の像を授与される。

8月23日 ●「救いの鐘」、NME紙で2位、MM紙でも2位。

8月30日 ●「思い出を胸に」(Don't Forget to Remember)NME紙で12位、MM紙で11位、CB紙で76位初チャート。

9月 ●TV映画「キューカンバー・キャスル」(きゅうりのお城)の撮影に入る。

9月10日 ●「トゥモロウ・トゥモロウ」日本でも発売。

9月20日 ●「思い出を胸に」、NME紙で2位。

9月27日 ●同曲MM紙で2位。

秋 ●アルバム「The Best of Bee Gees」ゴールド・ディスクを受ける。

●バリーとモーリス、ニューレーベルGEE GEEを創立。

1月 ●バリーとモーリス共演のテレビ映画「キューカンバー・キャスル」、68年春から3週間にわたって、イギリス、アメリカで放映。

3月10日 ●ロビン・ギブの第2弾ソロ

・シングル「ミリオン・イヤーズ」(A Million Years)日本でも発売。

5月10日 ●ロビン・ギブの第3弾シングル「夏と秋の間に」日本でも発売。

6月10日 ●ロビンのソロ・アルバム「救いの鐘/ロビン・ギブ」日本でも発売。

7月10日 ●アルバム「キューカンバー・キャスル」日本でも発売。同時にシングル・カットした「アイ・オー・アイ・オー」(I.O.I.O.)がヒット。

●モーリス、バリーとのコンビを続けながらソロ・シングル「レイルロード」(Railroad)日本でも発売。

8月10日 ●バリー・ギブのシングル「I Kiss Your Memory」日本でも発売。

●この頃バリーとモーリス「小さな恋のメロディ」のサウンド・トラックやバリー・ウィンザーと共演の「Sing A Rude Song」に出演、また音楽を担当。

●ロビン・ギブ、グループ脱退後17ヶ月ぶりにバリーとモーリスのもとにもどる。

9月1日 ●バリー、リンダ・グレイ(20才)と結婚。

9月30日 ●ギブ兄弟が再び一線になって初めてのアルバム「トゥー・イヤーズ・オン」からのシングル「ロニー・デイ」(Lonely Days)をイギリスでリリース。

10月31日 ●ビー・ジーズ再結成後初のLW-TVに出演。

11月27日 ●アルバム「トゥー・イヤーズ・オン」イギリスでリリース。

12月12日 ●イギリスのラジオ・キャンペーン「STAMP OUT TONY BLACK BURN」に出演。

12月26日 ●映画「キューカンバー・キャスル」、ブライド・フェイイスのハイド・パークにおけるコンサートのフィルムと共に放映される。

1月16日 ●「トゥー・イヤーズ・オン」CB紙LPチャート84位に初ランク。

1月30日 ●「ロニー・デイ」、ドーン・の「ノックは3回」に代ってCB紙で1位となり、同時にRIAA公認のミリオン・セラーとなる。

2月 ●アメリカを始め、イギリス、東南アジア、ヨーロッパ諸国、オーストラリア等でコンサート・ツアーを行う。

5月10日 ●アルバム「トゥー・イヤーズ・オン」、「ロニー・デイ/ザ・ビー・ジーズ」として日本でも発売。

6月26日 ●ヘラルド映画「小さな恋のメロディ」(フリス・フセイン監督、マーク・レスター、ジャック・ワイルド、トレーシー・ハイド主演、ビー・ジーズ、サウンド・トラックを担当)日本でも公開、「ある愛の時」をしのぐほどのロング・ランとなり続々と続映。

6月-9月 ●同時に主題歌「メロディ・フェア」(Melody Fair)大ヒット。

8月 ●元ティン・ティンのドラマー、ジョフ・ブリッジフォード、ビー・ジーズに加入

る。

8月10日 ●シングル「カントリー・ウーマン」日本でも発売。

8月14日 ●日本では「カントリー・ウーマン」(Country Woman)のB面として発売された「傷心の日々」(How Can You Mend A Broken Heart)CB紙で1位、「ロニー・デイ」に続くRIAA公認のゴールド・ディスクとなる。

9月 ●アメリカでコンサート・ツアーを行う。

9月25日 ●「傷心の日々」「イスラエル」などを収めたLP「トラファルガー」、アメリカで発売。CB紙LPチャート62位初登場。

10月10日 ●シングル「イン・ザ・モーニング」(In The Morning)日本でも発売。

10月23日 ●トラファルガーCB紙で最高18位にランク。

1月15日 ●シングル「マイ・ワールド」(My World)イギリスでリリース。

●アルバム「トラファルガー」の中の曲「過ぎ去りし愛の夢」(Don't Wanna Live Inside Myself)日本でも発売。

1月22日 ●「マイ・ワールド」CB紙初登場50位。

1月27日 ●ニュージランドのオークランドで公演。

1月29日 ●オーストラリアのメルボルンにて公演。

1月30日 ●シドニーにてコンサート。

2月1日 ●プリズベーンにてコンサート。

2月3日 ●アデレードにてコンサート。

2月4日 ●バースにてコンサート。

2月5日 ●「マイ・ワールド」CB紙チャート3週目で34位。

2月25日 ●オランダ公演。

●アムステルダムでテレビにゲスト出演。

2月26日 ●「マイ・ワールド」CB紙18位。

3月4日 ●同曲CB紙15位。

3月9日 ●インドネシアのジャカルタにてコンサート。

3月10日 ●「マイ・ワールド」日本でも発売。同時に2枚組日本版アルバム「マイ・ワールド/ザ・ビー・ジーズ・ベスト・コレクション」発売。

●今日から13日までシンガポール、香港公演。

【以上時間的な制約があったためにかなりのとりこぼしがあったと思いますが、主なものをひらひらと集めました。資料集に際し、ミュージック・ライフの追加編集をほじめ編集部の皆さんに御協力いただいたことを感謝します。】

★参考資料：ビルボード誌、キャッシュ・ボックス誌、ミュージック・ライフ、メロディ・メーカー誌、ニュー・ミュージカル・エクスプレス誌。

《ボリドール：三沢重雄》



THE BEE GEES

座談会



司会：亀淵昭信●ニッポン放送(発言順)

ビー・ジーズ来日

亀淵：きょうは、皆さんお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。いよいよ待望のビー・ジーズがやって来るわけですが、皆さん、ビー・ジーズをお好きな方ばかり、八木誠さんは、百点満点で大体どのくらいビー・ジーズが好きですか。

八木：95点ぐらいですね
亀淵：5点は、どこが悪いんですか。
八木：ほくより男まえて、もてるし……、
亀淵：木崎さんは百点満点で何点ぐらいですか

木崎：私は150点
亀淵：朝妻先生はいかがですか。
朝妻：百点満点で85点と90点の間ぐらいですね

亀淵：木崎さんの気の狂った150点は別にして、皆さんちよつとずつマイナスの点がありますね。マア、音楽というのは100%いいものじゃないですから、どこか不満なところはあると思うんですけど、今回のコンサートでその不満を解消していただきましょう。

八木誠●音楽評論家



メロディアスなビー・ジーズ音楽

亀淵：さて、ビー・ジーズというと、やわらかい、どうしてもわれわれに印象に残るのは“マサチューセッツ”とか“ホリディ”とか、去年はやった“小さな恋のメロディ”とか、最近では“傷心の日々”とか、そういったやわらかい、ソフト・ロックみたいなのが非常にヒット曲として多いわけですね。そこで、彼らは“ソフト・ロック・グループ”といっているのかしらね。

八木：あまりロックはやらないみたいですね。
朝妻：やはりあれはソフト・ロックだよ。
八木：“ソフト・ロック”といっても、昔のいわゆるソフト・ロックとは全然違っているみたいだけれども……。

朝妻：マア、アソシエーションとか、ビー・ジーズとか、レターメンとかを含めて、全部“ソフト・ロック”と呼んでいいんじゃないの。
亀淵：ハードじゃないというか、つまりレッド・ツェッペリンとか、グランド・ファンクとかのおよそ反対側にいると、そういう意味ですね。

八木：でも、ビー・ジーズを聞いていると、レターメンなんかにはない、その意外とギザギザしたところがあるんじゃないですか

木崎：レターメンの方が、年代が上になると思うんです。ビー・ジーズは若者のハートをとらえるソフトな音楽で占めている、そんな感じがビー・ジーズの音楽の特徴ですね。

朝妻：でも、ビー・ジーズの場合、レターメンと全く同類項ではないけれども、木崎さんの言ったとおり、年代的には確かにレターメンよりも低いネ。それでいて音楽性とか、そういう意味でいえば、すごく幅広いものを持っているし……要するに、コーラスよし、それに何よりも、メロディがいいということです。

亀淵：レターメンと違って、こういったやわらかいロックをつくるグループとか、アーティストには珍しく、ほとんどの曲を自分たちで書いているということも、いま朝妻さんのいったように、たいへんなことじゃないんですか。どうでしょう

八木：そうですね。
木崎：しかも、それぞれに個性があるし……。
八木：作曲する場合にむずかしいのはメロディでしょう。たとえばロック・グループというのはアレンジやリズムで違えたりできるけれども、彼らの場合はメロが中心だから、それだけにいろんな新しいメロディをつくるのはむずかしいでしょう。

亀淵：それはむずかしいですね。
八木：でも、彼らはちゃんと前進しているものね。

亀淵：最初のヒット曲というと“マサチューセッツ”とか“ニューヨーク炭坑の悲劇”とかありましたけれども、そのころから比べると現在の一番新しい“マイ・ワールド”なんていうのは、ちよつと似てきた感じがありますね。

朝妻：その前の“傷心の日々”なんていうのは、ほんとうに傑作だよ。ある意味では天才的だし。“マサチューセッツ”とか“ワールド”とか“ワーズ”とか、あれはすごくいいメロディではあるけれども、10年たつてみんなが歌っているかどうかといったら、何となく疑問が残る。けれども“傷心の日々”というのは、10年たつて歌ってもおかしくない曲だね。

八木：そういえば“傷心の日々”というのは、いろんなアーティストが歌っているね。レターメンも歌っているし。

亀淵：それだけいい曲なのかも。
朝妻：そういう意味では、メロディもここ数年の間はかなりよくなっているというか、作曲家としても進歩しているということが感じられるね。

苦難の道乗り越えて

亀淵：彼らは現在4人組ですが、中心となっているのは兄弟3人で、ヒット曲が出るまでにだいぶ苦労したといわれています。そういった苦労が現在の地位を築き上げたといえると思うんですけど。

木崎：7、8年オーストラリアで苦労していたというハナシでしょう。ミュージシャンが売れないころ、どこかのクラブ、あるいはそういうステージに立って一生懸命やっていたというのは、逆にいえば、その間にすごく勉強していたということですね。

朝妻：結局、世の中に出てきたというのは、そういう下積み時代に、早くいえば何枚レコードを聞いたとか、どれだけ勉強したということ、そのあと長く伸びるか、伸びないかも、その勉強を続けるか、続けられないかにかかると。

八木：それは何の商売でも同じですね。パッと出ちゃうと、それだけ積んだものがないし、3年がまんしていれば、3年間の積みかさねを徐々に引き出して、その間にまた勉強できると。

亀淵：そうすると、ビー・ジーズは“ニューヨーク炭坑の悲劇”が最初のヒットで、パッとデビューしてから2年ぐらいというのは、いま考えると、その頃の貯金を引き出してたという感じなのかしら。

朝妻：そうみたい。やはりオーストラリア時代に録音したものがあとで発売されたけれど、それを聞いても、なるほどこの辺から“マサチューセッツ”とか、そういうものが出たんだなあという曲が相当ある

だから、オーストラリア時代のを第一期ビー・ジーズみたいに出して、それで自分たちがいま以上に行くためにはスタイルを変えなければいけないということで、たとえばメンバー交代とかいうように移っていったんじゃないかと思う

亀淵：そういった意味で現在のビー・ジーズを暗示するようなものが、オーストラリア時代の作品の中にありますか

木崎：ありますね。もちろんオーストラリア時代のは、まだ完成されていないビー・ジーズの姿だけれども、その中にビー・ジーズの今日の音楽性のひらめきみたいなものは感じられます。

八木：でも、初期のビー・ジーズというのは、意識して同じものをつくっていたということも考えられると思うんだ

亀淵：意識してというのは、どういうこと？
八木：つまりどのグループでも自分たちのパターンを持っていて、一発ヒットを出して、二発目は全く違う傾向のものを出すものもある。逆に、同じような傾向でしばらく続けていくようなグループもある

亀淵：つまり、初期の“ニューヨーク炭坑の悲劇”にしても“マサチューセッツ”にしても意識して、同じような曲調にしていたということ？
八木：だと思ふんだ。いろんなものを出していくのも確かにりっぱだけれども、同じような傾向のものを発表して、それをみんな当てていくというのは、もっとむずかしいことだよ。それをあえてやっていて、その間に次の何か新しいものを生んでいくというやり方もある。

亀淵：ところで、ビー・ジーズには、いろいろトラブルというのがありましたね。そのころの消息を教えてください。最初はとにかくロビンとバリーとモーリスの3人兄弟でスタートしたわけですね

八木：その後、コリン・ピーターセンとヴィンス・メロニーが相次いで加入して、5人組となったけど、結局この2人はやめてしまった。

朝妻：ところが、そのうちからまたロビンがソロ・シンガーになって、だからビー・ジーズは、1回モーリスとバリーの2人組になったことがある

亀淵：それで活動しなかったときが……

朝妻：そう。2人になってからはあまり活動しなかった

八木：あのころは、ソロ・シンガーとして別れたロビンのほうが、どっちかというレコードを出していたね

亀淵：そういえば、その頃にはずいぶんたくさんさんのグループができたけれども、次から次へ解散していったようですね。ところで、皆さん方は、ビー・ジーズが活動をとめたときに2人組になって、もうだめだと思いましたか

朝妻：いまになってそうだったからいうわけじゃないけれど、ビー・ジーズはまた出てくるなと思ったね。というのはある意味で、さっきもいつたけど、自分たちが第一期のビー・ジーズ・サウンドみたいなものを確立したそして、さつき八木君がいったように、“マサチューセッツ”とか“ワーズ”とか“ワールド”とか“ホリディ”とかを発表して、第一期のサウンドを意識的に同じようにつくっていったけれどもその辺で次のものをつくるには、いまのメンバーのままでは絶対うまくいかないという形にしろ、ある程度メンバーを変えていかなければいけないと考えたんでしょうね

たとえば、ロビンの場合をとってみてもそういうふうやって、何か自分たちか新しくするために、意識的にグループから独立したみたいところか感じられたんですけど、それから、さつきとビー・ジーズは、スタイルを新しくするために、わざわざこんなことをやっているんじゃないかなという気もしました

八木：ほくは正直いうと、だめだと思いましたネ。ちよつとあとのかもしれないけれども、彼等は映画なんかに出たりしていたでしょうそれにビー・ジーズをやめたヴィンス・メロニーなんかも、アシュトン・カードナー&タイクといったニュー・クルーフのプロデュースをしていたし、コリンも自分のレコード会社をつくったりしていた。同じ頃には、ビー・ジーズも自分達のレーベルをつくっていたしネ。だからほくは、むしろプロデューサーとか、そういった方向に進んでいくのではないかという気がしていた

亀淵：つまり歌手としてよりもミュージック・ビジネスの方にネ。レコード会社をやってみたり、プロデューサーをやってみたり……



木崎義二●音楽評論家

八木：もちろんレコードを出していつて、ある程度の人気は獲得していただろうけれども、デビュー当時みたいなセンセーショナルなレコード発表はしなかった

亀淵：木崎さんは
木崎：あのころというのは、それまで順調な歩みを続けてきた彼らが、音楽的に1つの壁にぶつかったんだと思うんだ。こういう路線だけでぼくたちはいいのたろうかと思ったかどうかかわからないけれども、やはりあれだけやると、音楽家というのは目先のことがわからなくなってしまう。当時はお金もたいふ入ってきていたことだし、ちよつと演奏活動をやめて、それから新しい気持ちで何か自分たちのやりたいことをやろうと考えるのは、音楽家として妥当な線だ。だから、という形どリパイバルするかはわからないけれども、いすれはやるだろうとは思っていました

亀淵：とにかく3人兄弟で、3人のうちの2人は双子で、おにいさんが1人ということだから、どちらかといえは2人兄弟とはんはか1人という感じで、とても仲がいいわけですね。けれどもしあまり兄弟仲がよすぎるからけんか別れたというような説もありますし、

朝妻一郎●音楽評論家





一方で「血は水よりも濃し」のたとえじゃないけと再び一緒にになった原因でもあるといえますネ。

朝妻：いまはまた一人ジョフ・ブリッジフォードというメンバーが入って、4人になっていますね。だから、いずれ何か……たとえばロビンがソロになるとか、バリーがソロになるとかして、ある程度の細胞分裂を起こして、第3期のビー・ジョーズが出てくるんじゃないかと思えます。少なくともいまのままで、ビー・ジョーズが終ってしまうとは思われませんネ。

亀淵：自分たちの才能を、たとえば1人になってできるものだったら1人になって、たまに歌うときがあるかもしれないということですね。

朝妻：ええ、彼らは非常に頭がいいというか、要するに自分たちが長生きするための才能を知っているみたいですね。

見逃せないロバート・スティグウッドの存在

亀淵：さっき八木さんがおっしゃっていましたが、歌のほうを休んでいるときにレコード会社をつくってみたいり別々でやってみたりと、いろいろやっているわけですが、彼らのブッキング・エージェンシーというか、そういったことに入りますと、問題になるのは、やはりロバート・スティグウッドさんですか。どんな人なんでしょう。

木崎：イギリスを背負って立つ男といってもいいですね。

亀淵：そのロバート・スティグウッドさんはいろんな人気グループをやっていたわけでしょう。

朝妻：クリームとか。

亀淵：ビートルズは違うんですか。

朝妻：あのころはビートルズの会社員というか、とにかくブライアン・エプスタインがつくった会社のマネージャーだったわけですね。亀淵：ビートルズのマネージャーがブライアン・エプスタインで、その人がつくった会社の社員だったわけですね。

朝妻：要するにグループのマネージャーじゃなくて、会社のマネージャー。

亀淵：支配人をやっていたわけですね。

朝妻：それで結局、そのビートルズのつくった会社にビー・ジョーズを入れたのが、ロバート・スティグウッドさんだったわけですね。

亀淵：そうすると、その後ロバートさんは

ビー・ジョーズと一緒に逃げちゃったわけですね。

朝妻：ビートルズの会社をやめて、自分でR S O、つまりロバート・スティグウッド・オーガニゼーションというのをつくって、そこにクリームとか、ビー・ジョーズとかを入れたわけですね。

亀淵：クリームとか、ビー・ジョーズという両方ともすごく有名な、一代を成したアーティストですね。

朝妻：だから、木崎さんがいうように、イギリスを背負って立つといってもおかしくないわけ、とにかくイギリスの音楽界の大親分といえますネ。

八木：結局、彼のうまいところは、たとえばビー・ジョーズをアメリカあたりに圧力をかけて、アトコ・レコードと25万ドルで契約させるといったようにすごく先を読んでいるというか、そういうのがすごくうまいね。

木崎：やはりああいうショー・ビジネスの世界で、先を見る目というのは、絶対大切だね。亀淵：つまりロバート・スティグウッドがいたからこそ、いまのビー・ジョーズがあるといえますか。

木崎：その要素もあると思うし、彼らそういう切れ者がいても、タレントがよくなかったら、そうそうは長続きはしないですね。

朝妻：やはりいい調教師といい馬と、両方そろってはじめていい組み合わせができるのであって、馬だって、いい馬がいないければ駄馬も等しいですよ。

亀淵：そうすると、ビー・ジョーズがいろんな会社をはじめてのも最初はマネージャーのロバート・スティグウッドさんの見よう見まねで始めたのかしら？

八木：そうですね。もともと、コリンなんかをみてみると奥さんの力も結構あるみたいだけれども……。

朝妻：もしかするとビー・ジョーズも第二のスティグウッドというか、あるいはそれ以上のものになるかもしれないですね。

亀淵：そんなふうにしてビー・ジョーズというのは、アーティストとしては画期的というか、比較的普通の人がやらないような珍しいようなことを、だんだんやっていこうとしているわけですね。

ビー・ジョーズの残した実績、影響は？

亀淵：それでは、ビー・ジョーズのポップス界に残した実績といえますか、いままでいろんなものに影響を与えていると思うんですけど、たとえばグループを見つけたとか、そういった話はありませんか。

朝妻：ティン・ティンというグループがそうですね。その前にもあったね。

八木：P・P・アーノルドなんかもある程度そうですね。彼女なんかは途中から、バリーのプロデュースでレコードを発表しているし、また3人の妹がやはりロバート・スティグウッドのもとからデビューした、なんていうハナシもあるでしょう。

亀淵：そうすると、音楽的にもみんなビー・ジョーズに傾向は似ているんですか。

八木：ティン・ティンはビー・ジョーズの弟分みたいな感じでね。

朝妻：弟分で思い出したけれども、今度入ったドラマーというのが、前、ティン・ティンにいたんだね。

亀淵：ティン・ティンのドラマから、今度はビー・ジョーズへ昇格したわけだね。

木崎：でも、日本の音楽界にビー・ジョーズの与えた影響というのはばく大だと思う。

朝妻：加橋かつみくん……。

木崎：彼もその中の1人になるだろうし。

亀淵：ちょうど日本にビー・ジョーズが紹介されたころ、日本にもたくさんのグループがバレーと出てきましたネ。そういったグループにビー・ジョーズはぜひぶん大きな影響を与えたと思うんですね。

朝妻：そうですね。たとえばリパブル・サウンドみたいなのを日本でやるのは非常にむずかしいけれど、ビー・ジョーズの音楽というのは、まずメロディが先行しているから、日本のグループにとっては非常にやりやすい。その点でみんながまねをしたということはありませんね。

八木：その反面、歌唱力を必要とするけれどもいわゆる日本人的な感覚だものね。

亀淵：それから、ビー・ジョーズにつられて似たようなグループが出てきたということはありませんか。

朝妻：レコードとしては、「あつ、これはビー・ジョーズを意識しているな」というのは、けっこう聞いたことがあります。マア、大成したグループはなかったけど、やはりビー・ジョーズのあとを直っつけようというグループは、けっこうあったみたい。

亀淵：それからもう一つ、さっき八木さんが、

ビー・ジョーズのアメリカの販売権をアトコ・レコードが、25万ドルを出して買ったといってたでしょう。その辺からですか。大金を出して、イギリスのアーティストをアメリカの会社が独占するみたいな傾向が出てきたのは……。八木：あのころからですね。第一アトランティックという会社にしても、あまり海外に進出しなかった会社でしょ。アメリカのリズム・アンド・ブルースとか、ジャズが専問だから。けれどもあの辺からかなり変わってきて、いまはすごい感じ……。ツェッペリンもそうだし……。

朝妻：逆にいえば、うまくアトコが当たったので、イギリスのグループをどんどん高い金を出して買おうという傾向が表面化してきた。1つのあれも、そういう形で先鞭をつけたといえるネ。

亀淵：エボック・メイキングといえますか……なるほどね。あとそのほかには、ビー・ジョーズの実績といえますか、そういったものはありますか。

木崎：あのころからジョンとボールの曲でいろいろメロディアスな曲があったけれども、アメリカの業界でもかなり出てきたような気がするんだ。

亀淵：そういった意味で、ビー・ジョーズの歌というのは、ジョン・レノン、ポール・マッカートニーの曲に続いて、アメリカ・アーティストが取り上げられているといっても過言ではないですか。

八木：それに、1つには業界的にみた場合、たとえばその前がリパブル・サウンドだったでしょう。つまり、どっちかというギンギンの雰囲気なものが多かったわけですね。そうするとやはり時代の流れというか、次は当然メロディックなものということになって、そのタイミングをビー・ジョーズはうまくとらえたといえる。そのかわり、ああいうものは、いざ大有名になった場合にはすごく印象が強いし、さっき朝妻さんがいったみたいに、同じようなグループが出なかったというのは、当然といえば当然だと思います。結局、同じメロをつくって、同じようにすばらしいレコードをつくっていくというのは、もっともつとむずかしいと思うわけです。

朝妻：それはそうだね。だれでも、聞いたときは、すぐにビー・ジョーズのまねとわかるしね。

亀淵：それはアーティスト活動というわけですが、そのほかに作品面においても、ちょっと話したように、ベリー・コモとか、小じ・フェリシアーノとか、まだたくさん

人がビー・ジョーズの歌を取り上げていますね。やはりそれだけりっぱなんでしょうね。朝妻：それと、アルバムに入れた場合、まずメロディがいいわけですね。だから、だれでも取り上げたがるし……。

八木：初期の作品でいろんなアーティストが取り上げているのは「トゥー・ラブ・サムバディ」でしょう。あの曲なんかはリズム・アンド・ブルースの分野でもいっぱい歌っているし、ニーナ・シモンなんかもやっているね。

木崎：あれはすごくよかったな。

朝妻：そういう意味で、さっきも出たけれども、やはり作曲家としても非常にすぐれていて、ほかの人にいろいろ歌われるというのも、やはり1つの実績でしょうね。

亀淵：大体、メロディがきれいなものというのは、どちらかというと愛の歌が多いんですけど「トゥー・ラブ・サムバディ」みたくても、単なるラブ・ソングだけではなくて、何か意味を持っているようなものもありますネ。

八木：「ファースト・オブ・メイ」という曲があったけれども、やはり単なるラブ・ソングじゃないみたいですね。

朝妻：それは「メロディ・フェア」にしても同じことがいえるわけです。あれは瞬間フツ・ソングに聞こえるけど、でもよく聞くと人生について語っているようなところもある。要するに、ちょっとダブル・ミーニングみたいなところがあって、一見単純なラブ・ソングでも、その奥には意味の深いものを持っている。だから、作詞家としてもなかなかいたしたものじゃない？ ぼくは「トゥー・ラブ・サムバディ」の詩をよくわかっていないんだけど、それをいろんな歌手が歌うということは、詩としてもすごくすぐれているんじゃないかと思う。

亀淵：それから、これはビー・ジョーズの詩とも非常に関係あることですが、映画の「メロディ・フェア」にビー・ジョーズの曲が取り上げられたということは、とても映像的になりやすいということでしょうか。それと同時に日本でビー・ジョーズの人氣が爆発的に上がったというのも、その「メロディ・フェア」のヒットのおかげじゃないかと思うんですよ。そのへんの意見について皆さんはどうでしょうか。

木崎：「マサチューセッツ」が第一段階で、それをもっと大衆に広めた感じですね。

朝妻：中の曲もほんとうによくできているよみんな。

木崎：リズムミク的な曲だったら、作曲する場

合に比較的つくりやすいわけですが、メロディのきれいな、いわゆるバラード・タイプの作曲というのは一番むずかしい。そういう中ではいままでああいう作品をたくさんつくっているということは、やはり彼らは才能があるんだよ。

亀淵：それから、単にレコードで聞くだけじゃなくて、映画「メロディ・フェア」の中での曲を聞くと、その曲のよさが10倍にも、20倍にも大きくなったという感じがしたんですけど、八木さんはいかがですか。

八木：それは映画音楽の持つ特徴じゃないかしら。特に彼らの場合は音楽と、あの映画というのがすごくマッチしたし、そういうところじゃないかと思うんですね。

朝妻：それと、あの映画は何となくビー・ジョーズの「メロディ・フェア」をもとにしてつくったんじゃないかという感じがする。普通は、映画があってそれに音楽を挿入するわけだけど、あれは音楽があって、それに発想を得て映画ができたみたいな……。さっき亀淵さんがいついたけど、彼らの音楽というのは、音楽を聞いたときに、そこから絵が出てくるというか、状況を思い浮かべることができますネ。

亀淵：確かに「ファースト・オブ・メイ」の木木の表現を昇りさせるころなんかは、ほんとうに絵がバーッとする感じでね。

八木：とってもおもしろいのは、あの「メロディ・フェア」の音楽自身は映画のために書いたわけじゃなくて、前からあったものだし、しかもそれはルルのためにビー・ジョーズが書いた曲なわけでしょう。ルルは人気挽回をはかる意味かどうかかわからないけれども「メロディ・フェア」のLPを発表して、ふしぎなことにルルのほうは当たらず、向こうのほうに当たって……。

朝妻：八木君のいうのは、結局、曲が映画を誘発するというか、彼らの曲というのはそういう魅力を持っているということだね。

八木：映画音楽というよりも、音楽映画の感じが強いね。ビー・ジョーズ音楽映画というか。

朝妻：「小さな恋のメロディ」は、ほんとうに全体がビー・ジョーズの感しだもの。

八木：ただ、ぼくははつきりいうと「メロディ・フェア」のビー・ジョーズを、そのまま今の彼らとして評価してほしくはないですね。というのは「メロディ・フェア」は確かにいい曲だけれどもビー・ジョーズの音楽性の進歩ということからすると、アレは今の彼らの音楽ではないと思うんですよ。

亀淵：つまりこういうことですね。「メロディ・



THE BEE GEES

「マア! ビー・ジースのファンになった方は、それはそれでいいけれども、もっとたくさんあのビー・ジースを聞いてもらいたいと、もう、あのビー・ジースは興行が広いんだといわなければ」

八木: そう、あれからビー・ジースはもっと成長しているし

電測: あれはあれでいい曲だけれども、八木さんのおっしゃるのは、それだけで、その音楽を評価してほしくない、何かそれに付け加えることはないですか、木崎さんはい

木崎: 私が思うに、小さな恋のメロディによってビー・ジースのファン層が増えることは事実でしょう。それによって、またビ

ー・ジースのレコードを聞くというファンがふくまれる、これは当然ビー・ジースのPRにもなるし、そのレコードはあってしかるべきだと思う。だからといって、それがビー・ジースのすべてではないし、やはりほかの作品も聞いて欲しい

電測: 今回はそのいいチャンスなというわけですか

朝妻: それからもう一つ付け加えれば、あれから、それから数年前に発表されたものだというものをみんなに知ってほしいわけです。要するに、みんな前に発表された曲なのに、いまはヒット・ハートに入っても全然古くないし、ほんとうにいまつくられたみたいな感じ

電測: つくられてから2年半か、3年近くです

朝妻: しかも彼らは、そのあとも、たとえば「傷心の日々」なんていうを出していて、要するにいまのサウンドも持っているわけですから、そういうビー・ジースのカミみたいなものを、みんなに知ってほしいという気がします

コンサートへの期待

電測: ビー・ジースはたいへん盛況で、盛況で、たいへん盛況で、聞かせ場をつくるためにコンサートでも、40人とか、50人とかのファルハーモニーをつれて、ちゃんと専任の指揮者をつれて歩いたという話がありますね、やはりビー・ジースの魅力というと、弦の魅力があるような気がするんですけど

八木: 弦のない曲の人たちの音楽というのは、クリーフのないコカコーラみたいな

朝妻: いま、ロー・ウ・クル、そして外国などではよく弦をバックにしたりしているけど日本では、いままでそういうのを見る機会がなかった。だから、そういう意味で、オーケス

トウを、ロー・ウ・クル、そして、そして

電測: それが見どころ、聞きどころというわけですね

八木: 録にもなるしね

電測: そのほかに、見どころ、聞きどころはありますか、木崎さんは

木崎: さっき、事といったけど、ほくたちはお金を出して、ビー・ジースの夢を買いに行くわけ、切符を買って会場に行つてビー・ジースの音楽を聞きながら、ビー・ジースの音楽を通して自分の夢というのをみつける。そういうのがまた人生にプラスになると思う

電測: 女の子なんか、コンサートが終わるとうっとりした感じで

八木: たとえば、中学生とか高校生のファンが、ガールフレンドとか、ボーイフレンドをつれて2人で聞く。ここから夢が広がっていくという、これは画期的なこと

朝妻: すごく夢のあるグループということですね

八木: いまのこの4人にはできないことだからね

朝妻: いままで日本に来たクル、たたくはレターメンみたいな、一般にいわれているムード音楽みたいなグループは別として、若者向きの音楽をやっている一番夢のあるグループがビー・ジースじゃないかな

電測: それがいよいよ見られるわけですね、最後に、これだけは絶対に聞いてほしいと思われ曲、何をやるかわかりませんが、これはたぶん歌うだろうと。この曲だけは皆さん真剣に聞いてほしいと思曲があると思つてすけれども、朝妻さん、どの曲をみんなに聞いてほしい?

朝妻: ほくが一番好きな「傷心の日々」と「獄中の手紙」

電測: 木崎さんはどうでしょう

木崎: 私はやはり「トウ・ラブ・サムハティ」が好きだから、あの曲は絶対ビー・ジースに歌ってもらいたい曲であるし、そこからぼくは一生懸命夢を見つけると

電測: 八木さんは

八木: 初期の感じからいくと「ホリディ」みたいに静かなもの。それと「トウ・ラブ・サムハティ」それから「トウ・イヤーズ・オン」のアルバムに入っていたような曲ですね

電測: それではいよいよ公演を楽しみにいたしましょう

ありがとうございました





MUSIC LABO

1月の“ビルボード”ステージ評から
〈河端 茂〉



●ハル・ノア・ストレイサント

ラスベガス、ヒモトン・ホテル
例年、クリスマス・イブから1月にかけて彼女は、ラスベガス、ヒモトン・ホテルをプレゼンしている。この時期、彼女のステージ・ナウ「イエ・マディ」など盛り沢山のプログラムは、どんなシャネルの歌でも立派にこなしてしまう彼女の才能を充分に証明したと、エリオット・ティエグルは絶賛している。

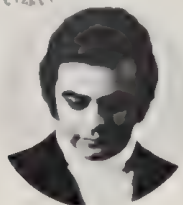
「肌のつややかさと金色のトーン」と彼は表現しているが、さすがに客席はヤングの姿が少なく、中年層の客が多かったようだ。最上の観客をつねに要求する彼女は、バックのオーケストラに弦楽器の楽器を用意させたという。

このホテルのメイン・シアターは、日本でいえば帝劇ぐらいの大きさ。映画「エルヴィス・オン・ステージ」ですっかり馴染みになったが、この客席をいっばいにするのは、彼女とエルヴィスぐらいしかない。そして、この女王の貴族らしき目には、



●スティーブ・ローレンスとイーディー・ゴーマー

ラスベガス、シーザス・パレス
「うたとならんで、1月のラスベガスの人気を二分した舞台、新曲7曲をふくめて65分間のスピーディなショーだった。まずスティーブが「アイフ・コッタ・ビー・ミー」を歌い、「モア」エメント・ノー・サンシャイン」とつづけていく。ミス・ゴーマーの登場は15分後で、曲目は「マイ・ファニー・ヴァレンタイン」エリオット・ティエグルは、ローレンスの「モア」をかつてきたことのない精神的な歌といい、ゴーマーについては、スローで悲しい「マイ・ファニー・ヴァレンタイン」や「マイル・テイク・ロマンス」などの明るいメロディのコントラストが、じつによかったと言っている。もちろん2人のコミディックなトーンの歌をはめることも忘れていない。



●ショニー・マチス

ラスベガス、サハラ・ホテル

真赤なベルベットのスーツで現れた彼女は、「イツ・ビューティフル・イブニング」をはいテンポで歌い、快活なショーの出足をみせた。なかでも「マチス・トリット・ミトレイ」は、彼女の特色あるスタイルと改めて聴衆に認識させるほどの出来栄だったという。聴衆はいっせいに立ちあがって、なんども拍手をおくったと、ローラ・デニは報じている。ラスト・ナンバーは「マリア」と「イフ・ウィ・オンリー・ハブ・ラブ」、ローラはただ素晴らしい一言につきると評しマチスの成功を無条件で認めている。



●トラフィック

〈ニューヨーク、アカデミー・オブ・ミュージック〉
6人編成のこのバンドが、アメリカの公演旅行をはじめたのは比較的最近だが、にもかかわらずエリート・クラスにはいっているのは、彼らの非凡な才能をよく証明している。「エンブティ・ペイジス」ヘン・イズ・イン・ユア・マインド」、それに最近のLPから「ザ・ロー・スパーク・オブ・ハイ・ヒールド・ボーイズ」「レイン・メーカー」などを選んで、みごとなパフォーマンスをこなした。

スティーブ・ウィンウッド、ジム・キャバルティ・クリス・ウッドらの独特な特殊に加えて、新加入のリーポップ(コンガ・ソロ)がうまく溶け込んでいたらしい。アンコールではもとメンバーのデブ・メイソンがギターを抱えて登場し聴衆をおどろかせた。「トラフィックは、アクトなどをする気配もみせなかった。彼らはもっぱら、音楽そのものに精神を集中し、それが迫力を生んだ」とポップ・グラセンプグは置いている。



●カウント・ベシー

〈ニューヨーク、メソネット、セント・リージス・ホテル〉
カウント・ベシーにとっては、数年ぶりのニューヨーク公演だった。彼は16曲を、普通のコンサート形式で演奏したあと、お客にフロアに出て踊るようにすすめ、フォックス・トロットにテンポをおとした。一流ビッグ・バンドの演奏で踊るのは、最近のニューヨークでは非常に珍らしく、お客は大喜びだったという。

ポール・コーヘンのトランペット、ジミー・リック

スの歌がとくに好評だったと、イアン・ドーブは伝えている。裏道を辿るジャズの世界で、こういう新しい試みが行なわれたことは画期的だと、周囲の評判もいい。



●ビル・ウィザース

〈ニューヨーク、ガスライト・オ・ゴーゴ〉
ワッツ・103ストリート・バンドのリズム・セクションをバックに、ビルは歌い、ギターを弾き、そして喋りかけて、彼独自のステージをつくり出す。「リスベクト・ユアセルフ」でショーをオープニングし、「レット・イット・ビー」「グランドマズ・ハンズ」「グリッツ・エンド・グロセリズ」などを歌いながら、その間の軽妙な語りかけによって、ビルはみごと彼の人生を描き出したと、ポップ・グラセンプグは賞讃している。

彼はリセックス・レコードのアーティストであるが、その人気は、普通のレコード・アーティストのそれとはだいぶ違う。その秘密は、彼のステージをみるとよくわかる、というのがポップの意見なのだ。



●デービッド・フロムバーク

〈ニューヨーク、フォーク・シティ〉
ニューヨーク界隈で、セッションにかけてはトップクラスの、ギターリストとして有名な彼は、ポップ・ディランなど一流アーティストのバック・アップ・ミュージシャンとしても知られているが、ステージで演奏しているときのデービッドは、むしろ科学者といった印象のようである。

こんどのフォーク・シティ出演は、彼のデビュー・アルバム発売と同時にこなされたもので、彼はフォークのほかにもブルース・カントリーもあわせて演奏した。彼のバックは、その人柄を反映してか、地味だが男力型のプレーヤーが多かったという。ラドクリフ・ジョーは、「彼はヴァイオリンからコルネットの範囲までカバーし、ユニークなサウンドを創造した」と、改めて特異な才能に舌を巻いている。

スイスの誇り。

スイスのバラ。スチャールチョコレート。

新発売!

スチャール。創業1826年。いまから、なんと150年も前、そのスチャールの伝統のチョコレートを、お届けします。おいしさはダブルクリーム。

ミルクとはちがう、濃厚なクリームのとろ味が、今までにないチョコレートの味をつくり上げています。

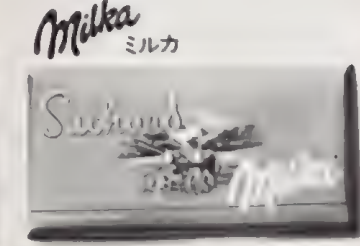
さすがにスイスの誇る名人技です。

まっ赤なバラの、つつみ紙。

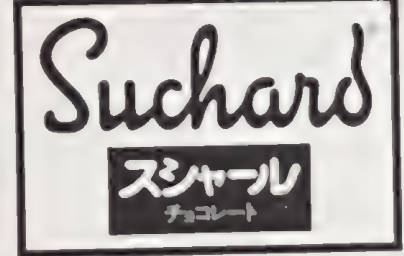
スチャールとご指名下さい。



甘さを抑えてあります。くだいて入れ、アーモンドの風味と、みごとに調和します。



普通のミルクチョコレートより、ほんのりとした甘さがあります。



95g 120円 スチャールチョコレート株式会社

バンガラデッシュ孤児救済チャリティコンサート

UNICEF COUNTRY AND WESTERN MUSIC TOUR IN JAPAN

カントリー・エクスプロージョン

C.M.Aが選んだ、カントリー・チャートのヒットメーカー10人が、日本にやってくる。
あの、子供たちを救うために... 彼らは愛の限りに歌う... ああ、バンガラ・デッシュ



ハイ・ヌーンでおなじみの
司会・テキサス・リッター
TEX RITTER
(CAPITOL)



●グレン・バーバー
GLENN BARBER
(VICTOR WORLD GROUP)



●ジャック・ブランカード &
ミスティ・モーガン
JACK BLANCHARD &
MISTY MORGAN
(VICTOR WORLD GROUP)



●ルロイ・ヴァン・ダイク
LEROY VAN DYKE
(MCA)



●トム・T・ホール
TOM T. HALL
(MERCURY)



●ワンダー・ジャクソン
WANDER JACKSON
(CAPITOL)



●レイ・サンダース
RAY SANDERS
(LIBERTY)



●コニー・スミス
CONNIE SMITH
(RCA)



●フレディ・ウェラー
FREDDY WELLER
(CBS)

5月19日 (金) 6:30 P
東京・日本武道館大ホール
A・¥1500 B・¥1000 C・¥700

5月21日 (日) 2:00 P.M / 6:00 P.M
大阪厚生年金ホール
A・¥1500 B・¥1000



キョードー東京・興行部 TEL(03)407-8155

キョードー大阪(06)344-0412

Love Sounds



キョードー東京・興行部
TEL(03)407-8155

キョードー大阪
TEL(06)344-0412



●セルジオ・メンデスとブラジル'77
<東京>
●4月28日
6:30 P.M. 日本武道館
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
<大阪>
●3月28日(土)・29日(日)
6:30 P.M.
フェスティバルホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
D・¥500



●レーモン・ルフェーフル
<東京>
●4月12日(日)
6:30 P.M. 渋谷公会堂
●4月16日(木)
2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
D・¥500
<大阪>
●4月4日(土)・5日(日)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
D・¥500



●ホセ・フェリシアーノ
<東京>
●5月1日(日)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
●5月2日(月)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
D・¥500
<大阪>
●4月28日(土)・29日(日)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
D・¥500



●ブレンダ・リー
<東京>
●5月22日(月)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
●6月25日(土)
2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
Love Seal(お2人様)
A・¥4500 B・¥3500
<大阪>
●5月22日(月)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
●6月25日(土)
2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
Love Seal(お2人様)
A・¥4500 B・¥3500



●エルマー・フォイ・ウィリアムス
<東京>
●5月22日(月)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
●6月25日(土)
2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
Love Seal(お2人様)
A・¥4500 B・¥3500
<大阪>
●5月22日(月)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
●6月25日(土)
2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
Love Seal(お2人様)
A・¥4500 B・¥3500



●カーペンタース
<東京>
●5月22日(月)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
●6月25日(土)
2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
Love Seal(お2人様)
A・¥4500 B・¥3500
<大阪>
●5月22日(月)
6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
●6月25日(土)
2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
Love Seal(お2人様)
A・¥4500 B・¥3500



●ビリーヴォーン楽団
<東京>
●5月11日(日)
1:00 P.M. 日比谷大ホール
(雨天の場合12日6:30 P.M.)
A・¥2100 B・¥1500
Love Seal(お2人様)
A・¥3800 B・¥2500
<大阪>
●5月4日(日)
6:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2200 B・¥1800 C・¥1500



●スウィング・シンカーズ
<東京>
●5月15日(土)・16日(日)
15日(土) 6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
16日(日) 2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
Love Seal(お2人様)
A・¥3800 B・¥2500
<大阪>
●5月15日(土)・16日(日)
15日(土) 6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
16日(日) 2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
Love Seal(お2人様)
A・¥3800 B・¥2500



●オイケン・キクロ・トリオ
<東京>
●5月15日(土)・16日(日)
15日(土) 6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
16日(日) 2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
Love Seal(お2人様)
A・¥3800 B・¥2500
<大阪>
●5月15日(土)・16日(日)
15日(土) 6:30 P.M. 全日本厚生年金ホール
16日(日) 2:00 P.M. 全日本厚生年金ホール
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
Love Seal(お2人様)
A・¥3800 B・¥2500

Love Sounds

素適な音楽番組“ラブサウンズ”を
おききになりませんか……

- ラブサウンズ・スペシャル
(4月10日所スタート)
文化放送(1130kc)毎週月曜日～金曜日
P.M.10:25～P.M.10:40
- ラブサウンズ・バレット
ニッポン放送(1240kc)
毎週日曜日P.M.5:00～P.M.5:30
- ラブサウンズ・スペシャル
FM東京(80.0MC)
毎週火曜日P.M.10:00～P.M.11:00
- 東京12チャンネルでは、ラブサウンズ・シリーズの特別番組を順次放送予定です。
日時はお知らせの予定です。お楽しみに
番組
- BE INラブサウンズ・コンサート
西武百貨店池袋本店の7階にあるヤングコー

ナー“BE IN”では、毎週土曜日と日曜日の午後1時、3時の2回、ラブサウンズ・レコードコンサートを開催しております。DJはラジオの人気DJ、評論家、レコード会社の宣伝マンが担当、素晴らしいプレゼントを用意し、あなたのお越しをお待ちしております。是非ご参加ください。

HI MUSIC

キョードーが招へいするミュージシャンの情報がわかるハイ・ミュージックをお読みください。(毎送料共155円。お申し込みは下記へ切手可。〒107港区北青山3-6-18共同ビル キョードー東京 ハイ・ミュージック係宛)



72 marumaru spring collection
春がきた。

春がきた
目を覚まし、
穴から這い出し、
殻を脱ぎ、
大地を踏みしめて
伸びをしよう。
さあ、始めよう。
あなた自身のやり方で
みんな生きている
PEACE & LOVE!

MD馬里邑
東京都世田谷区三軒茶屋
1-14-1 Phone 03-321-7111

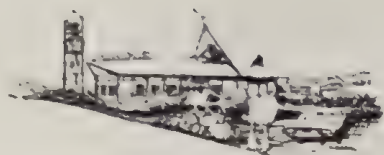
| | | |
|--|--|---|
| <p>愛 愛は、心と心をつなぐ力。それは、言葉では言い表せない。愛は、心をつなぐ力。それは、言葉では言い表せない。</p> | <p>街 街は、人々の集まる場所。それは、心をつなぐ場所。それは、心をつなぐ場所。</p> | <p>男 男は、力強い存在。それは、心をつなぐ存在。それは、心をつなぐ存在。</p> |
| <p>女 女は、優美な存在。それは、心をつなぐ存在。それは、心をつなぐ存在。</p> | <p>心 心は、人間の中心。それは、心をつなぐ中心。それは、心をつなぐ中心。</p> | <p>夢 夢は、人間の希望。それは、心をつなぐ希望。それは、心をつなぐ希望。</p> |
| <p>旅 旅は、人間の経験。それは、心をつなぐ経験。それは、心をつなぐ経験。</p> | <p>歌 歌は、人間の感情。それは、心をつなぐ感情。それは、心をつなぐ感情。</p> | <p>戦 戦は、人間の闘争。それは、心をつなぐ闘争。それは、心をつなぐ闘争。</p> |

仲間に一週間の差をつける **プレイボーイ** 毎週水曜日発売 集英社

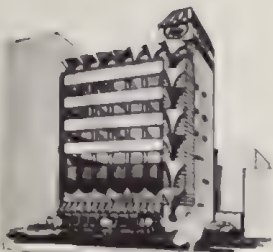
CONFECTIONERY AND RESTAURANT

アマンド

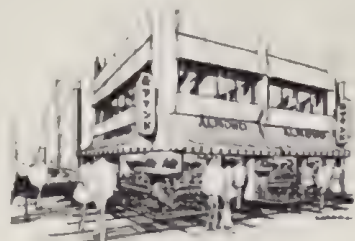
美しい菓子は 支える
美しい人生を！
快い菓子は あたえる
快い律動を！



品川246番地 トライアングル TEL.045-561-815



品川駅前1番地 Aビル1111 TEL.045-564-1828



品川駅前1番地 TEL.045-564-1828



品川246番地 TEL.045-561-815

ALOP
AMN

本社アマンド館 港区西麻布1-1-7 (403) 1181-1188

MUSIC LIFE

4月号

●リッチー・ヨーク・レポート

●ジミー・ペイジ、ロック界を鋭くきる！

■特集＝ニルソンとギル
バート・オサリバンのフシギな
フシギな世界

●徹底的研究＝スリー・ドッグ・ナイト
/ロック界の荒野を開拓した7人
の男達

☆

別冊付録

mini-MUSIC LIFE

CCR、ピンク・フロイド、シカゴ来日完全取材

●コンサート・ポスター・ミニ版3枚付き

●コンサート入場券(実物大)付き

■発行 シンコー・ミュージック

WELCOME THE BEE GEES

Technics 4^{ch} SYSTEM

4チャンネルの〈方式〉でお迷いのかたに謹告します

テクニクスなら——どんなレコードでも
4CH効果が存分に味わえる。

マトリクス4CHレコードも

各社各様のマトリクス4CHレコード。どのステレオがどのレコードに合うかしら……と心配にはおよびません。テクニクスなら、ツマミの操作ひとつで、どんなレコードでも4CH効果を存分に味わっていただけます。その秘密はAFD。音の拡がりや奥行きを自由にコントロールする画期的な新装置で、マトリクス方式のFM4CH放送もOKです



■各社市販マトリクス4CHレコードのAFDノミ調整位置

| AFD レベル | WIDTH 幅の値 | DEPTH 奥の値 |
|------------|--------------|--------------|
| モノラル | 6 | 4 |
| ステレオ | 6 | 4 |
| CBS | 10 | 10 |
| ステレオ | 6 | 4 |
| モノラル | 6 | 4 |
| ステレオ | 10 | 7 |

CD-4レコードもOK!

1本のレコード溝に独自の方式で4つの音を分離して録音し、再生できる、今話題のディスクリット4CHレコード(CD-4)にも備えは万全です。4系統独立のプリ・メインアンプを内蔵し、別売りのCD-4用復調器(ディモジュレータ)と、優れた高域特性の4CH手動待機トリッジをお求めになるだけで、この方式のレコードの魅力を思う存分、味わっていただけます。明確な音像の定位や安定した音場効果。聴いていて疲れない、自然な音場効果が得られます。

手持ちのステレオレコードも

テクニクスAFD装置は、決してムダ、無駄、ありません。AFD装置で、ステレオ4CH音場を自由に創り出せ、新しい音の世界が広がります。なにより、ライブレコーディングやユーロックなどは、特に効果が発揮されます。

テープ・FMも備えは万全

テクニクスAFD装置は、4系統独立のプリ・メインアンプを内蔵し、別売りのCD-4用復調器(ディモジュレータ)と、優れた高域特性の4CH手動待機トリッジをお求めになるだけで、この方式のレコードの魅力を思う存分、味わっていただけます。明確な音像の定位や安定した音場効果。聴いていて疲れない、自然な音場効果が得られます。



Technics SC-1558Nアンプ 価格180,000円

世界に伸びる技術のチリチリ

Love Sounds

華麗なるラブ・サウンス

《来日記念盤:3月10日発売》



“マサチューセッツ” “小さな恋のメロディ” “で
おなじみのザ・ビー・ジーズの最新LP!”

●デビュー曲から最新ヒット“マイ・ワールド”までの24曲が聴ける……

マイ・ワールド

ザ・ビー・ジーズ・ベスト・コレクション

マサチューセッツ/ワールド/ラブ・サム・バディ/メロディ・フェア/若葉のころ/イン・ザ・モーニング/ロンリー・ディ/トゥー・イ
ヤーズ・オン・マイ・ワールド/トラファルガー/過ぎ去りし愛の夢/傷心の日々/他全24曲

●MP-9403-4 2枚組 ¥3,000

★最新シングル盤

■マイ・ワールド/オン・タイム ●DP-1845 ¥400

The Bee Gees Discography

■トラファルガー

傷心の日々/トラファルガー/過ぎ去りし愛の夢/他全11曲
●MP-2215 ¥2,000

■「小さな恋のメロディ」オリジナル・サウンド・トラック

メロディ・フェア/若葉のころ/イン・ザ・モーニング/他全14曲
●MP-2172 ¥2,000

■イン・ザ・モーニング

MP-2203 ¥2,000

■ロンリー・ディ

MP-2185 ¥2,000

■キューカンバー・キャスル

MP-2085 ¥2,000

■ザ・ビー・ジーズ・ゴールデン・アルバム

MP-2037 ¥2,000

■ビー・ジーズ・ヒット・アルバム

MP-1444 ¥1,750

■アイディア

MP-1414 ¥1,750

■ザ・ビー・ジーズ・ファースト

MP-1575 ¥1,750

■ゴールデン・ダブル・アルバム

MP-2317-8 2枚組 ¥3,000

■オデッサ

MP-2305-6 2枚組 ¥3,000



発売元/ポリドール株式会社

木村がよさでいる

72西武 春のファッションテーマ



ホッと春のイメージをあなたに



踊る人々 春のイメージをあなたに



SEIBU 西武



BY ARRANGEMENT WITH ROBERT STIGWOOD PAUL DAINTY / WATSON TAY

THE BEE GEES

東京公演第1部出演者

第1部のステージを飾るのは、岸部シロー。
ブレッド&バターです。
岸部シローは、タイガース時代に磨いた音楽
的要素もさることながら、その軽妙な語りに
定評があります。ビー・ジーズ・ナンバーにあ
ったように「Joke」の名人で、酒脱な味わいを
示します。

アメリカのテレビショーやラスベガスのス
テージなどでは、シンガーのステージの中にき
まってJokeの名人が登場して聴衆を抱腹咲笑
させます。ショービジネスには欠くことの
できない日本では新しいタイプのエンターテ
イナーに、岸部シローは才能充分といったところ。
彼の楽しくハッピーな話術をお楽しみ下さい。

共演する「ブレッド&バター」は、兄弟。つい
この間までは岸部シローと一緒にプレイして
いたこともあるハーモニーのきれいな実力派。
ことしは音楽的にも一層ジャンプすると張切
っています。

岸部シロー

特徴：長身(185cm)、長髪、メガネ使用、ジ
ーバン着用
本名：岸部四郎
年齢：23才
家族：妻一人、男児(0才)一人
主歴：〈16才〜17才〉

7種の職業を転々とする。

〈17才〜18才〉

ザ・タイガースのメンバーである兄、
岸部修をたより上京。イソーロー生活
1年

〈19才〜20才〉

アメリカを単身、ブラリ・ブラリ。

〈20才〜22才〉

ザ・タイガースのメンバーに入る。解散。

〈22才〜23才〉

「シローとブレッド&バター」結成
(ポリドール)。

「野生の馬」(シングル・46年3月)、「バ
タフライ」(シングル・46年7月)、「Mo-
onlight」(LP・47年3月)

TBSドラマ「四つ児」、ショー「歌のグラ
ンド・ショー」等、数多くのドラマ、バ
ラエティ・ショーの司会などに活動を
開始。

〈23才〜現在〉

今年2月1日よりシローとB & B解散。
来る5月1日、初めてのシングル盤、
「ポケナン・ポケタン・ポケット」(ポリ
ドール)を発売予定。現在に至る。



ブレッド&バター

特徴：中肉中背、小ぶとり気味。
ジーバンにブレザー・コート
本名：岩沢幸矢(いわさわさつや27才)
岩沢二弓(いわさわ ふゆみ23才)
兄弟
主歴：数年来の地味なフォーク活動。

「傷だらけの軽井沢」、「マリエ」、「野生
の馬」(シローとB & B)、「バタフライ」
(シローとB & B)、LP「ムーン・ライ
ト」(シローとB & B)

今年2月1日より「シローとブレッド
& バター」を解散。

再び、兄弟で活動を開始。

この5月に東京音楽祭参加作品「今は
一人」を発売する。

今年、一大飛躍を期待できるグループ。

Love Sounds



キョードー東京・興行部
TEL (03) 407-8155



●セルジオ・メンデスとブラジル'77

● 4月28日(金) 6:30P.M. 日本武道館
A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000



●レーモン・ルフューブル(グランド・オーケストラ)

● 4月12日(木) A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
6:30P.M. Love Seat(お2人様)
● 4月16日(日) A・¥4500 B・¥3500
2:00P.M./6:00P.M.
渋谷公会堂



●ホセ・フェリシアノ

● 5月1日(月) 5月8日(月)・10日(水)
6:30P.M. 厚生年金ホール 6:30P.M. 郵便貯金ホール
● 5月6日(日) A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
6:30P.M. 渋谷公会堂 Love Seat(お2人様)
● 5月7日(日) A・¥4500 B・¥3500
6:00P.M. 渋谷公会堂



●ブレンダ・リー

● 5月22日(月) Love Seat(お2人様)
6:30P.M. 郵便貯金ホール A・¥4500 B・¥3500
● 6月25日(日) 共演・
2:00P.M. 厚生年金ホール 原信夫とシャープス&フラッツ
A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500 +ストリングス
FRANCO ROMANO SEPTET



●ミスター・ピアノ・ロジャー・ウィリアムス

● 5月27日(出)・6月9日(金) 2:00P.M. 郵便貯金ホール
6:30P.M. 厚生年金ホール A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
● 5月29日(月)・31日(水) Love Seat(お2人様)
6:30P.M. 郵便貯金ホール A・¥4500 B・¥3500
● 5月30日(火)



●カーペンターズ

● 6月2日(金) A・¥2500 B・¥2000 C・¥1500
6:30P.M. 日本武道館大ホール Love Seat(お2人様)
A・¥4500 B・¥3500



●ビリー・ヴォーン楽団

● 6月11日(日) A・¥2100 B・¥1500
1:00P.M. 日比谷大音楽堂 Love Seat(お2人様)
(雨天の場合12日6:30P.M.) A・¥3800 B・¥2500



●スウィング・シンガーズ

● 6月5日(月)・13日(火)・14日(水) A・¥2100 B・¥1500 C・¥1000
15日(木)・16日(金)・17日(土) Love Seat(お2人様)
6:30P.M. 郵便貯金ホール A・¥3500 B・¥2500



●オイゲン・キケロ・トリオ

● 7月10日(月)・11日(火)・12日(水) 6:30P.M. 郵便貯金ホール
A・¥1800 B・¥1500 C・¥1000
● 7月13日(土)・20日(土) 6:30P.M. ヤマハホール
A・¥1800 B・¥1500
Love Seat(お2人様) Love Seat(お2人様)
A・¥3000 B・¥2500 A・¥3000 B・¥2500

UNICEF COUNTRY AND WESTERN MUSIC TOUR IN JAPAN

バンブー・デ・シズル・見放清和・フット

●カントリー・エクスプロージョン●

●司会/テックス・リッター ●グレン・バーバー ●ジャック・ブランカード&ミスティ・モーガン ●ルロイ・ヴァン・ダイク ●トム・T・ホール
●ワンダ・ジャクソン ●レイ・サンダース ●コニー・スミス ●フレディ・ウェラー

5月19日(金) 6:30P.M. A・¥1500 B・¥1000 C・¥700 東京・日本武道館大ホール

